

## 第2章

# 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果

(一般高齢者・要支援者調査)



## 第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

### 1 あなたのご家族や生活状況について

#### (1) 家族構成及び昼間独居者の状況

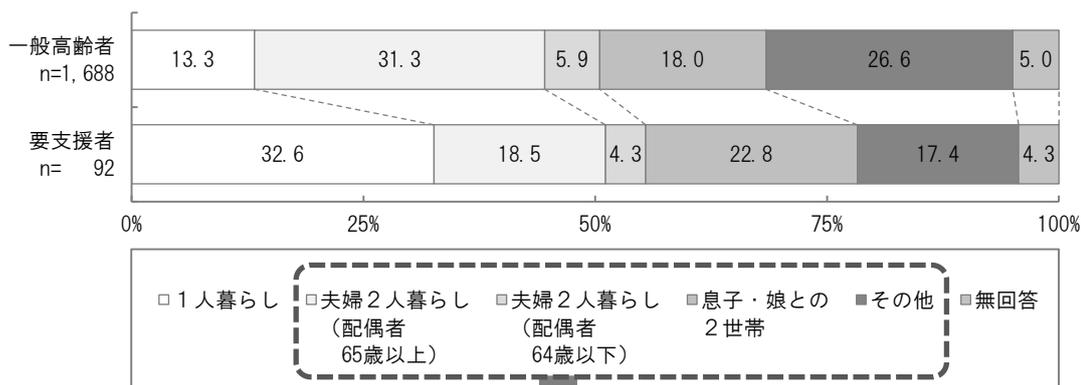
○家族構成をみると、一般高齢者は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（31.3%）が最も多く、次いで「その他」（26.6%）、「息子・娘との2世帯」（18.0%）、「1人暮らし」（13.3%）の順となっています。

○一方、要支援者は「1人暮らし」（32.6%）が最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」（22.8%）、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（18.5%）、「その他」（17.4%）の順となり、前者に比べて「1人暮らし」の方が19.3%<sup>ポイント</sup>高くなっています。

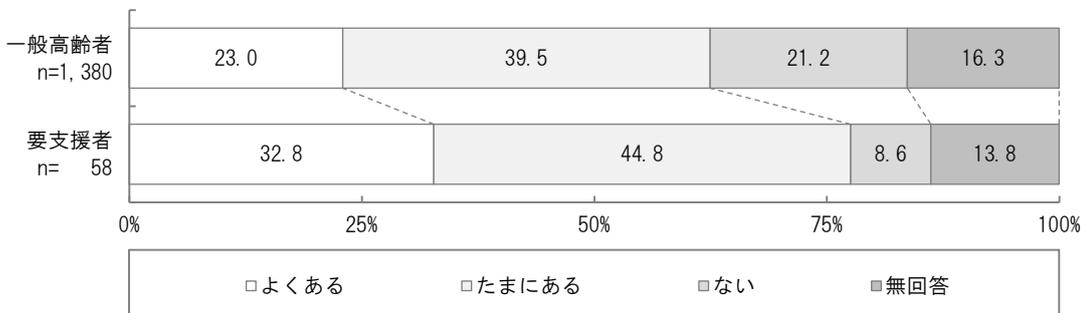
○日中に1人になることの有無では、一般高齢者は「たまにある」（39.5%）が最も多く、「よくある」（23.0%）を合わせた62.5%が日中に1人になることがあると回答しています。

○一方、要支援者は「たまにある」（44.8%）が最も多く、「よくある」（32.8%）を合わせた77.6%が日中に1人になることがあり、前者より15.1%<sup>ポイント</sup>高くなっています。

問1-(1) 家族構成



問1-(1).① 日中、1人になることの有無

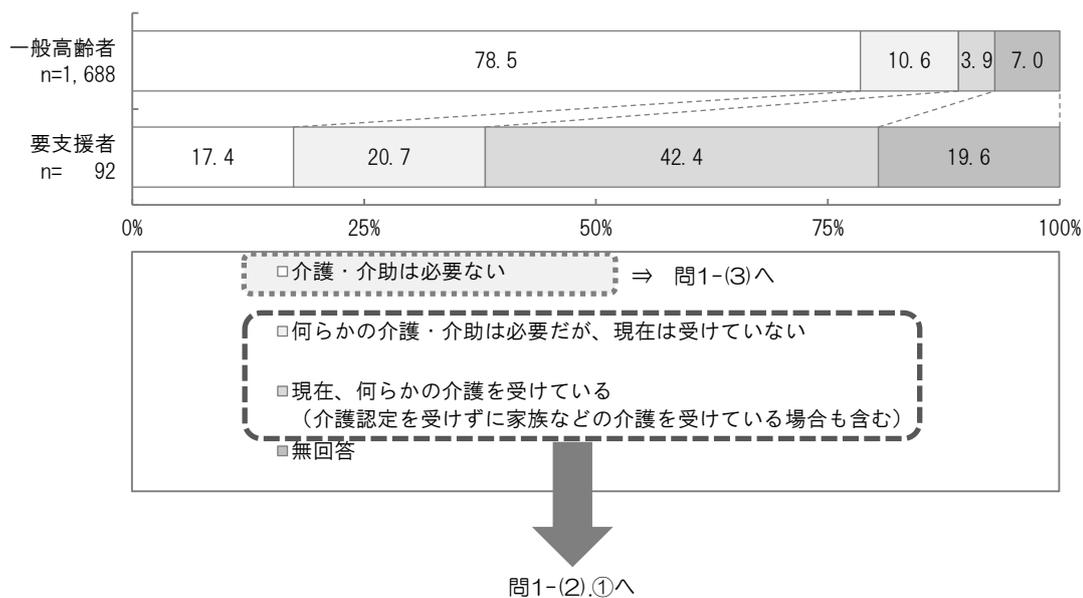


## (2) 日常生活における介護（介助）の有無

○普段の生活における介護・介助の状況をみると、一般高齢者は「介護・介助は必要ない」（78.5%）が最も多くなっています。

○一方、要支援者は「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」（42.4%）が最も多く、両者の差異は「介護・介助は必要ない」方は前者が61.1<sup>ポイント</sup>高く、「現在、何らかの介護を受けている（要介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」方は後者が38.5<sup>ポイント</sup>高くなっています。

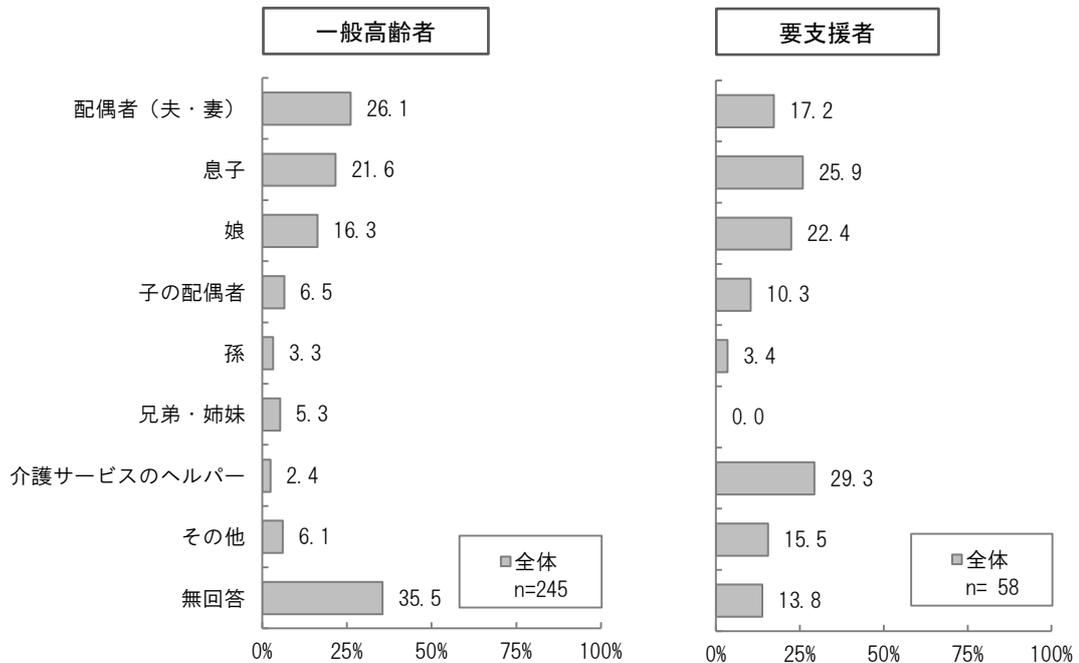
問1-(2) 普段の生活で介護・介助が必要か



○介護・介助をしてくれている人では、一般高齢者は「配偶者（夫・妻）」（26.1%）が最も多く、次いで「息子」（21.6%）、「娘」（16.3%）の順となっています。

○一方、要支援者は「介護サービスのヘルパー」（29.3%）が最も多く、次いで「息子」（25.9%）、「娘」（22.4%）、「配偶者（夫・妻）」（17.2%）、「子の配偶者」（10.3%）の順となり、「介護サービスのヘルパー」の割合は後者が26.9<sup>ポイント</sup>高くなっています。

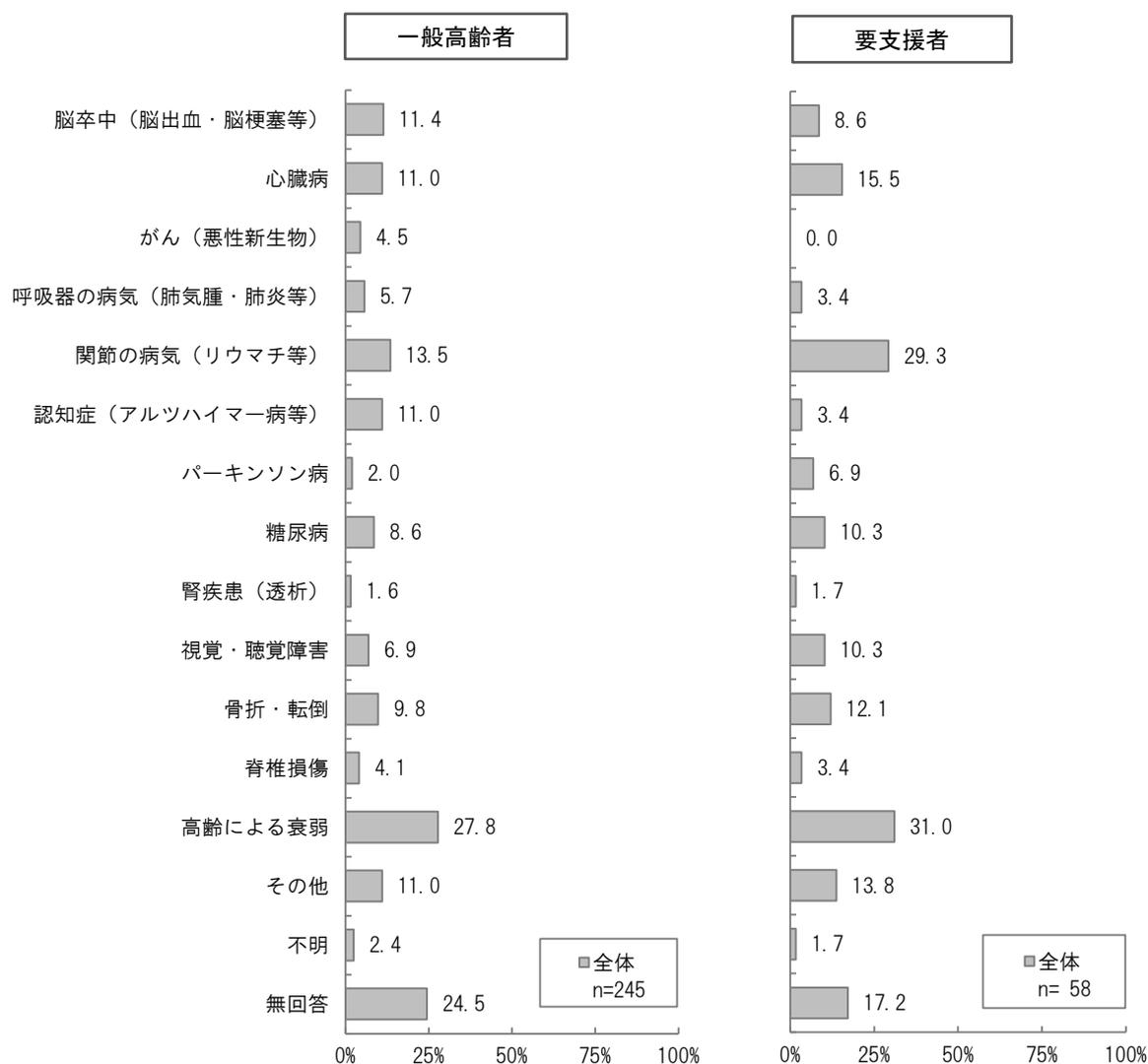
問1-(2).② 介護・介助をしてくれている人



○介護・介助が必要になった主な原因では、一般高齢者は「高齢による衰弱」(27.8%)が最も多く、次いで「関節の病気(リウマチ等)」(13.5%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(11.4%)、「心臓病」「認知症(アルツハイマー病等)」(各11.0%)の順となっています。

○一方、要支援者は「高齢による衰弱」(31.0%)が最も多く、次いで「関節の病気(リウマチ等)」(29.3%)、「心臓病」(15.5%)、「骨折・転倒」(12.1%)、「糖尿病」「視覚・聴覚障害」(各10.3%)の順となり、「心臓病」「関節の病気(リウマチ等)」「パーキンソン病」「糖尿病」「腎疾患(透析)」「視覚・聴覚障害」「骨折・転倒」「高齢による衰弱」などは後者が上回っています。

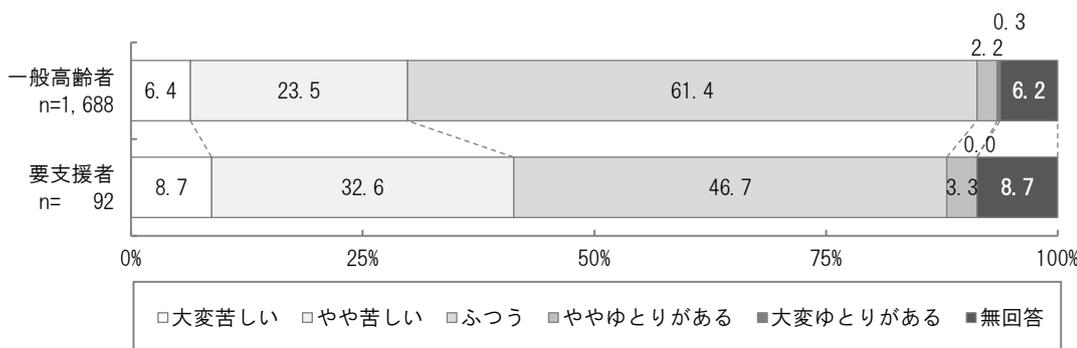
問1-(2). ① 介護・介助が必要になった主な原因



### (3) 現在の経済状況

○現在の暮らしの経済的状況をみると、一般高齢者・要支援者ともに「ふつう」(61.4%・46.7%)が最も多く、次いで「やや苦しい」(23.5%・32.6%)、「大変苦しい」(6.4%・8.7%)の順となり、「やや苦しい」方は後者が上回っています。

問1-(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみて

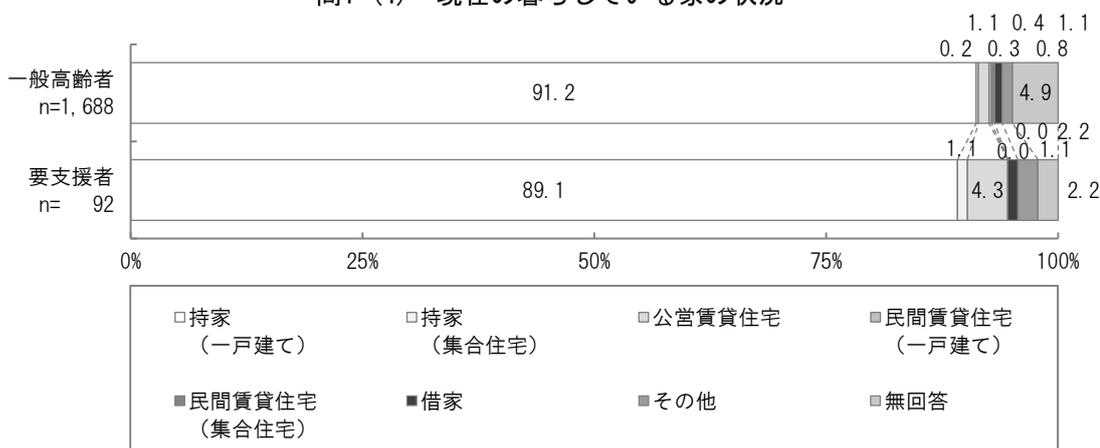


### (4) 現在の居住環境

○現在の暮らしている家の状況では、一般高齢者は「持家（一戸建て）」(91.2%)が最も多く、次いで「公営賃貸住宅」(1.1%)となっています。

○一方、要支援者は「持家（一戸建て）」(89.1%)が最も多く、次いで「公営賃貸住宅」(4.3%)の順となり、両者ともに「持家（一戸建て）」が90%前後と大きな差はみられません。

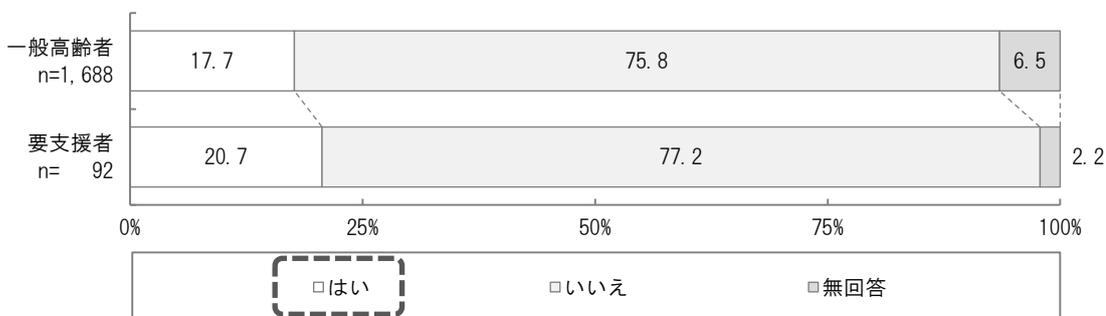
問1-(4) 現在の暮らしている家の状況



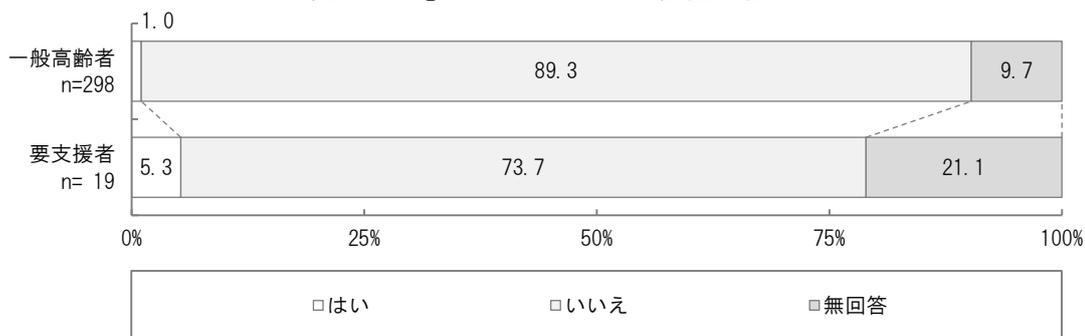
○2階以上に主な居住環境があると回答した方は、一般高齢者では17.7%、要支援者では20.7%となっており、後者の割合が3.0<sup>ポイント</sup>高くなっています。

○また、2階以上に主な居住環境がある方のエレベーター設置状況では、一般高齢者は1.0%、要支援者は5.3%となっています。

問1-(5) 2階以上に主な居住環境があるか



問1-(5).① エレベーターの設置の有無



## 2 からだを動かすことについて

### (1) 運動機能の状況

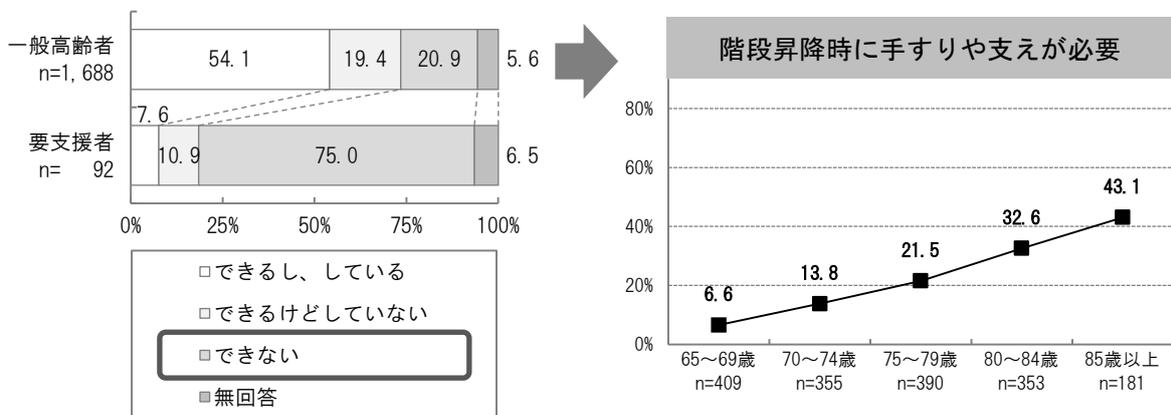
○階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるかでは、一般高齢者は「できない」が20.9%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「できない」が75.0%となっており、前者を大きく上回っています。

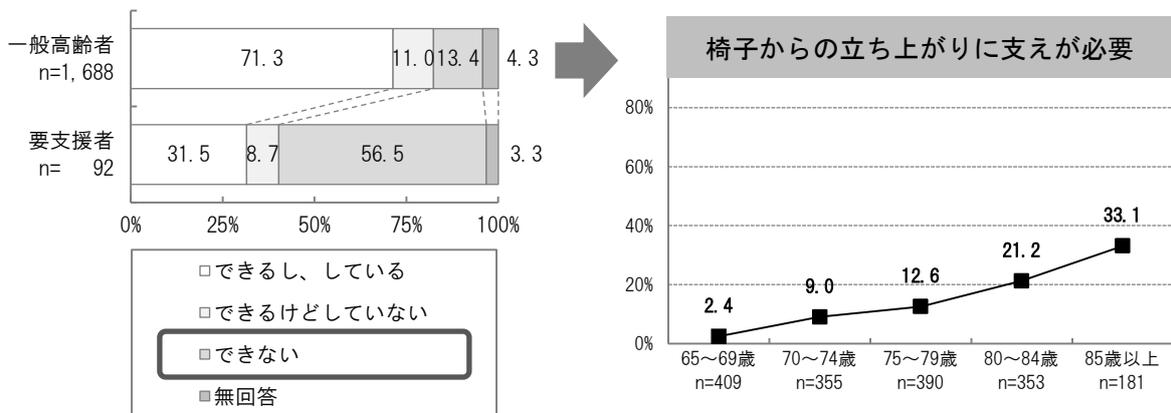
○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることは、一般高齢者は「できない」が13.4%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「できない」が56.5%となっており、前者を大きく上回っています。

問2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



問2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がるることができるか



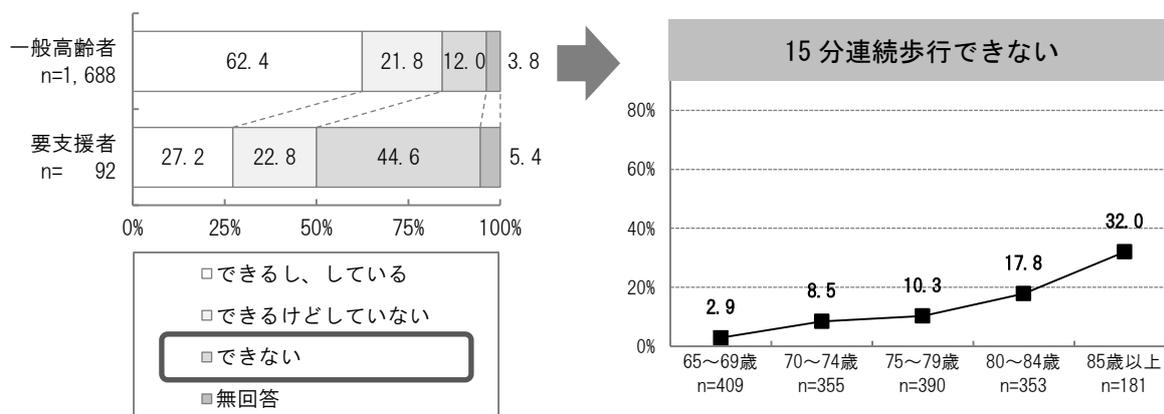
○15分位続けて歩くことができるかでは、一般高齢者は「できない」が12.0%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「できない」が44.6%となっており、前者を大きく上回っています。

○過去1年間に転んだ経験の有無では、一般高齢者は「何度もある」(12.2%)と「1度ある」(20.7%)を合わせた32.9%は経験があり、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

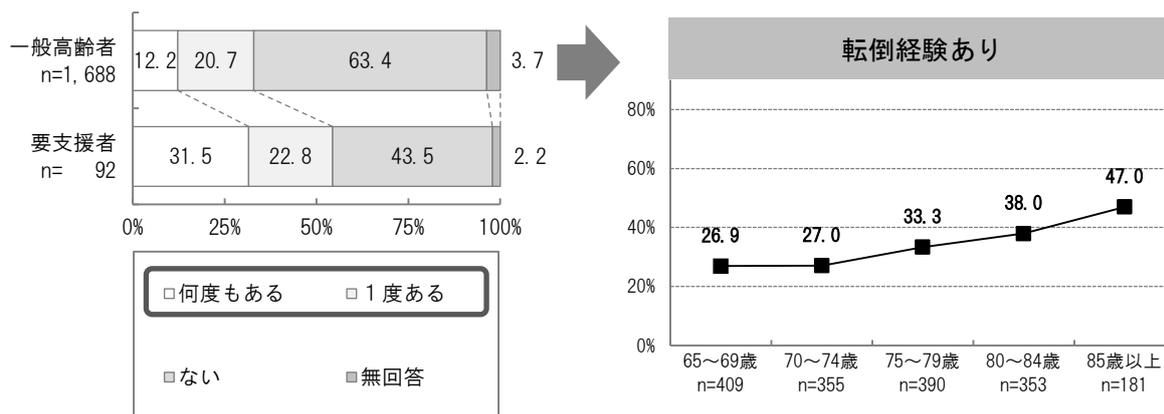
○一方、要支援者は「何度もある」(31.5%)と「1度ある」(22.8%)を合わせた54.3%が経験者となっており、前者を上回っています。

問2-(3) 15分位続けて歩くことができるか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問2-(4) 過去1年間に転んだ経験の有無



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

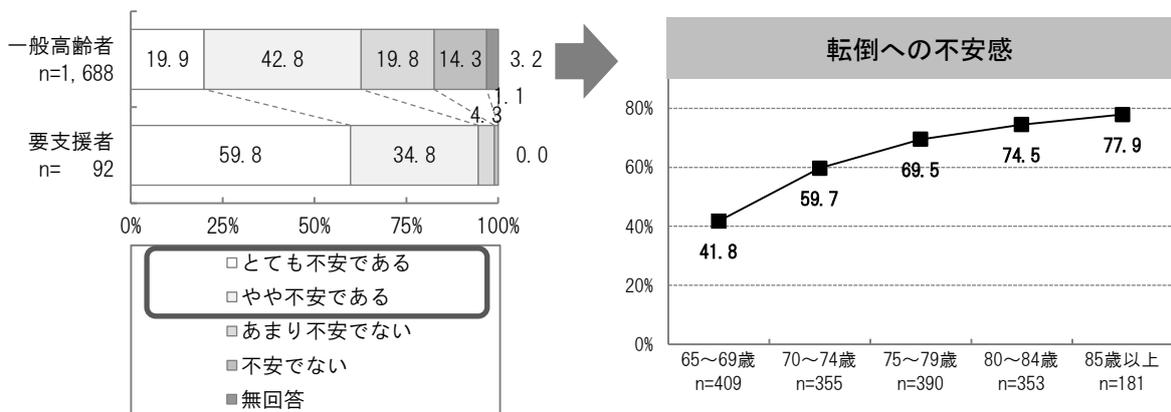
○転倒に対する不安の有無では、一般高齢者は「とても不安である」(19.9%)と「やや不安である」(42.8%)を合わせた62.7%は不安があり、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「とても不安である」(59.8%)と「やや不安である」(34.8%)を合わせ94.6%となっており、前者を上回っています。

○以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うかでは、一般高齢者は「はい」が65.8%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

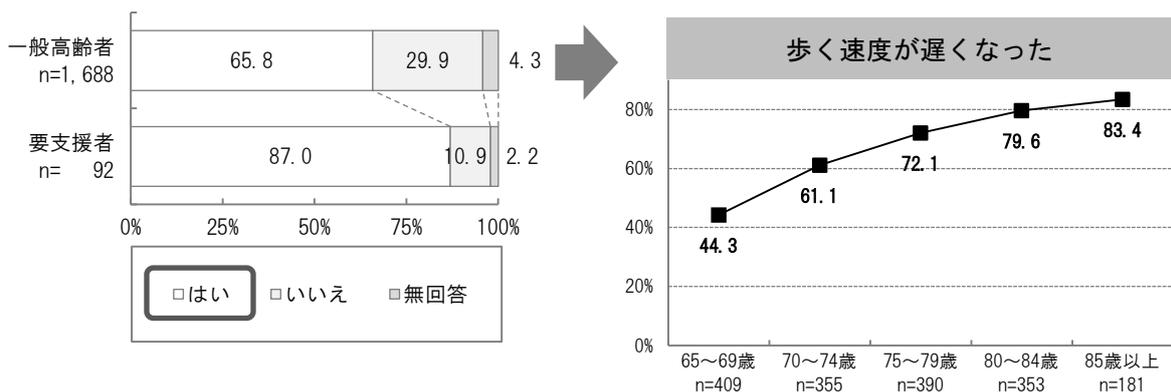
○一方、要支援者は「はい」が87.0%となっており、前者を上回っています。

問2-(5) 転倒に対する不安の有無



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問2-(11) 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うか

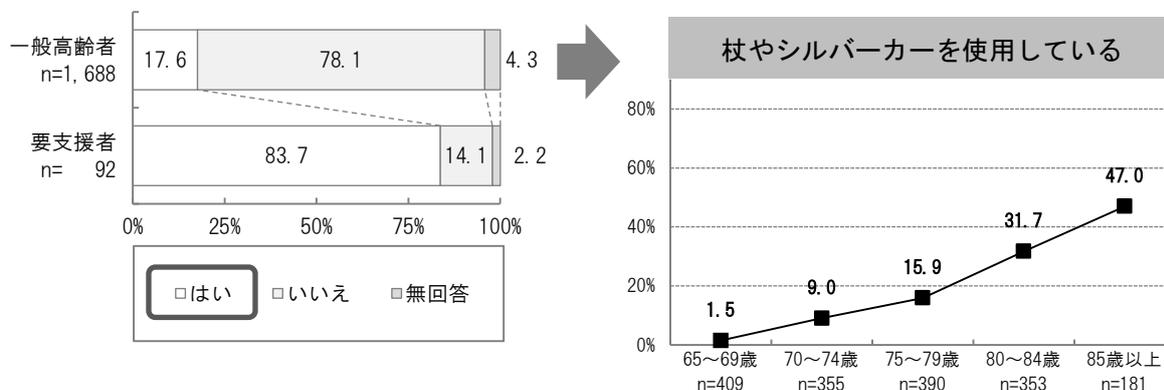


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○杖やシルバーカーの使用の有無では、一般高齢者は「はい」が17.6%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「はい」が83.7%となっており、前者を大きく上回っています。

問2-(12) 杖やシルバーカーの使用の有無



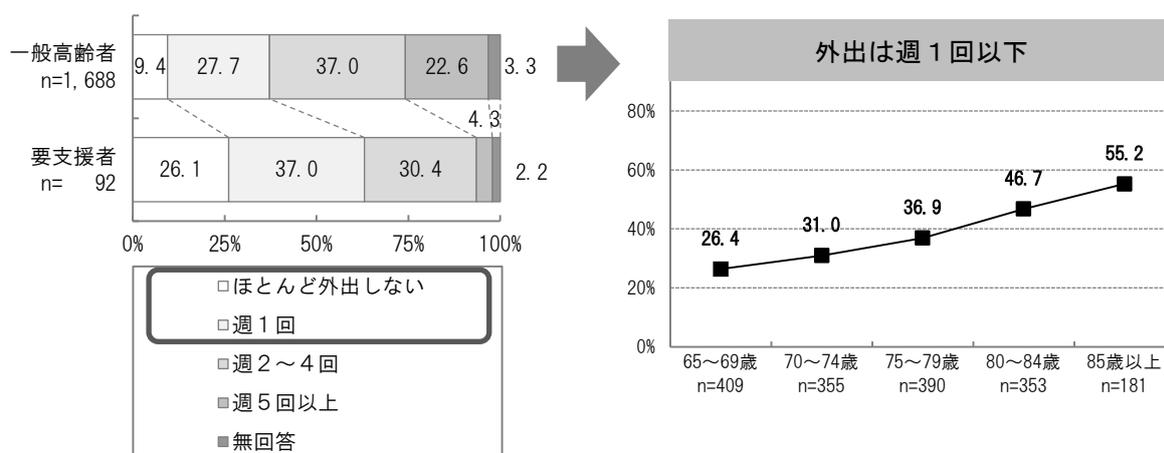
※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

## (2) 外出の状況

○週に1回以上の外出の有無では、一般高齢者は「ほとんど外出しない」(9.4%)と「週1回」(27.7%)を合わせた外出が週1回以下の方は37.1%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「ほとんど外出しない」(26.1%)と「週1回」(37.0%)を合わせ63.1%となっており、前者を上回っています。

問2-(6) 週に1回以上の外出の有無

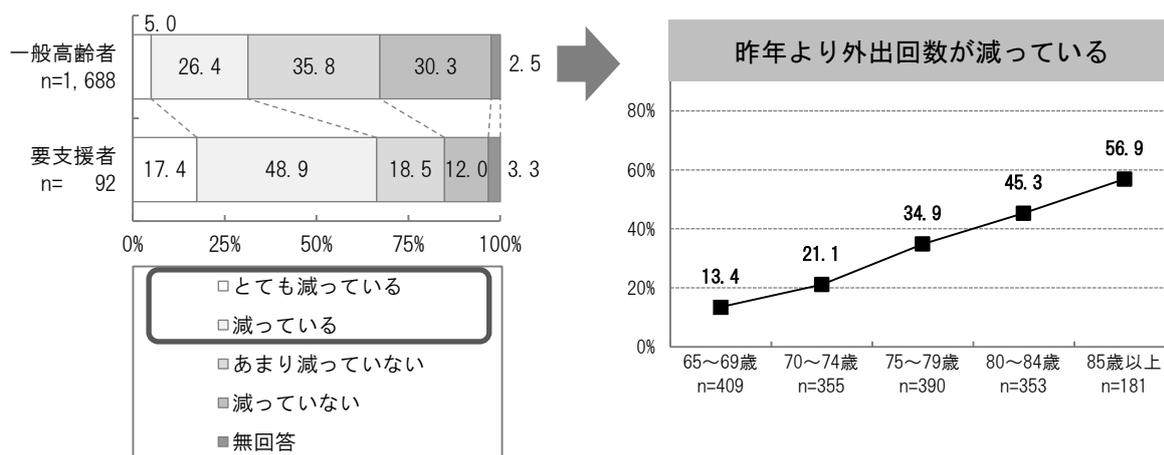


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○昨年と比べた外出の頻度の減少では、一般高齢者は「とても減っている」(5.0%)と「減っている」(26.4%)を合わせて31.4%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「とても減っている」(17.4%)と「減っている」(48.9%)を合わせ66.3%となっており、前者を大きく上回っています。

問2-(7) 昨年と比べた外出の頻度



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

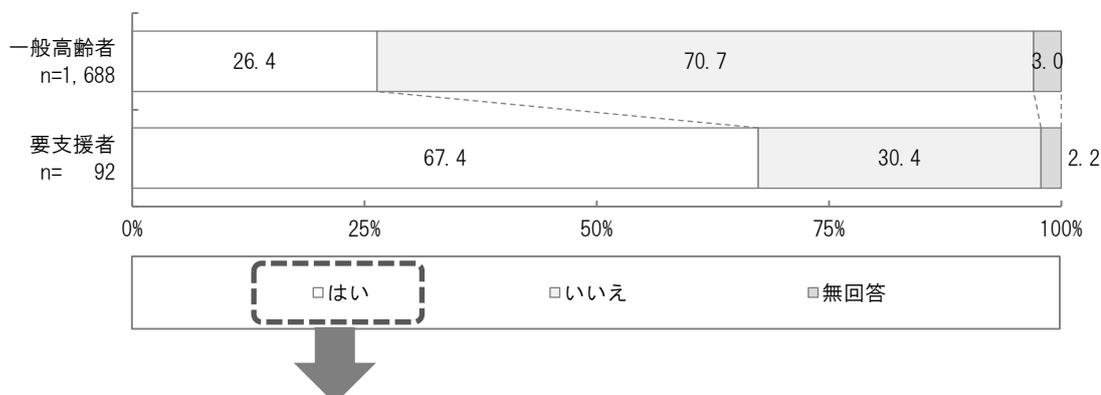
○外出を控えているかをみると、一般高齢者は「はい」が26.4%います。

○一方、要支援者は「はい」が67.4%、前者と比べ41.0%<sup>※</sup>高くなっています。

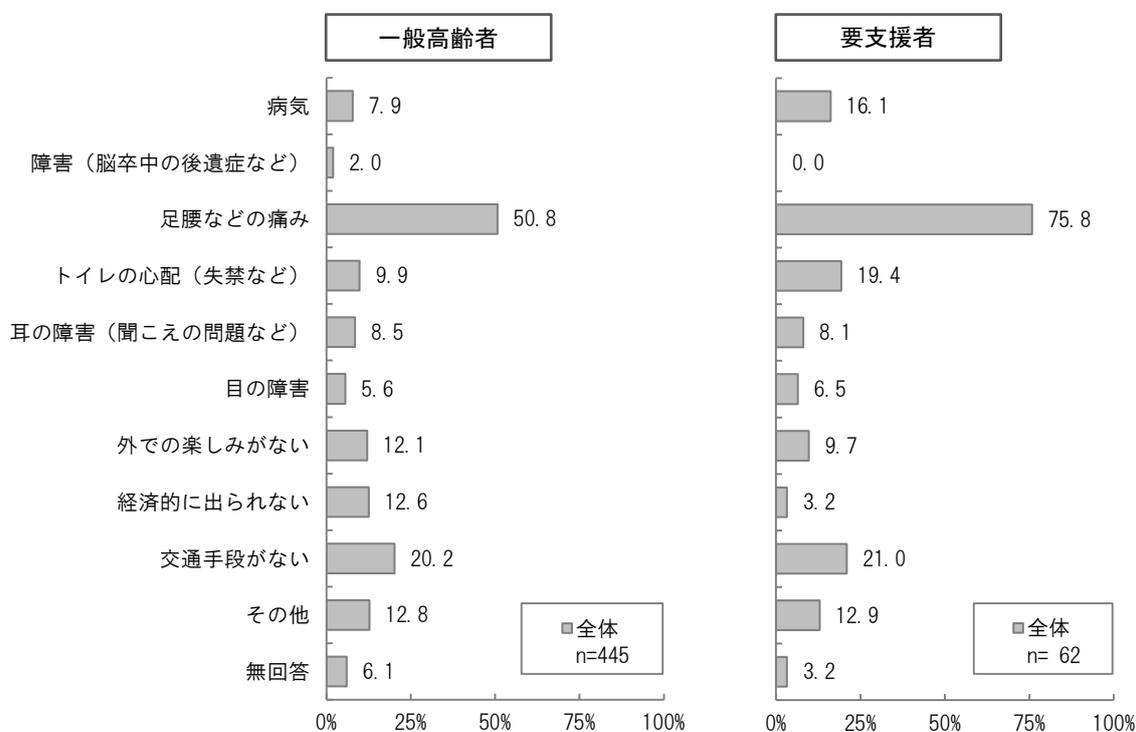
○外出を控えている理由では、一般高齢者は「足腰などの痛み」(50.8%)が最も多く、次いで「交通手段がない」(20.2%)、「経済的に出られない」(12.6%)、「外での楽しみがない」(12.1%)の順となっています。

○一方、要支援者は「足腰などの痛み」(75.8%)が最も多く、次いで「交通手段がない」(21.0%)、「トイレの心配(失禁など)」(19.4%)、「病気」(16.1%)の順となり、前者と比べ「病気」「足腰などの痛み」「トイレの心配(失禁など)」「目の障害」「交通手段がない」が上回っています。

問2-(8) 外出を控えているか



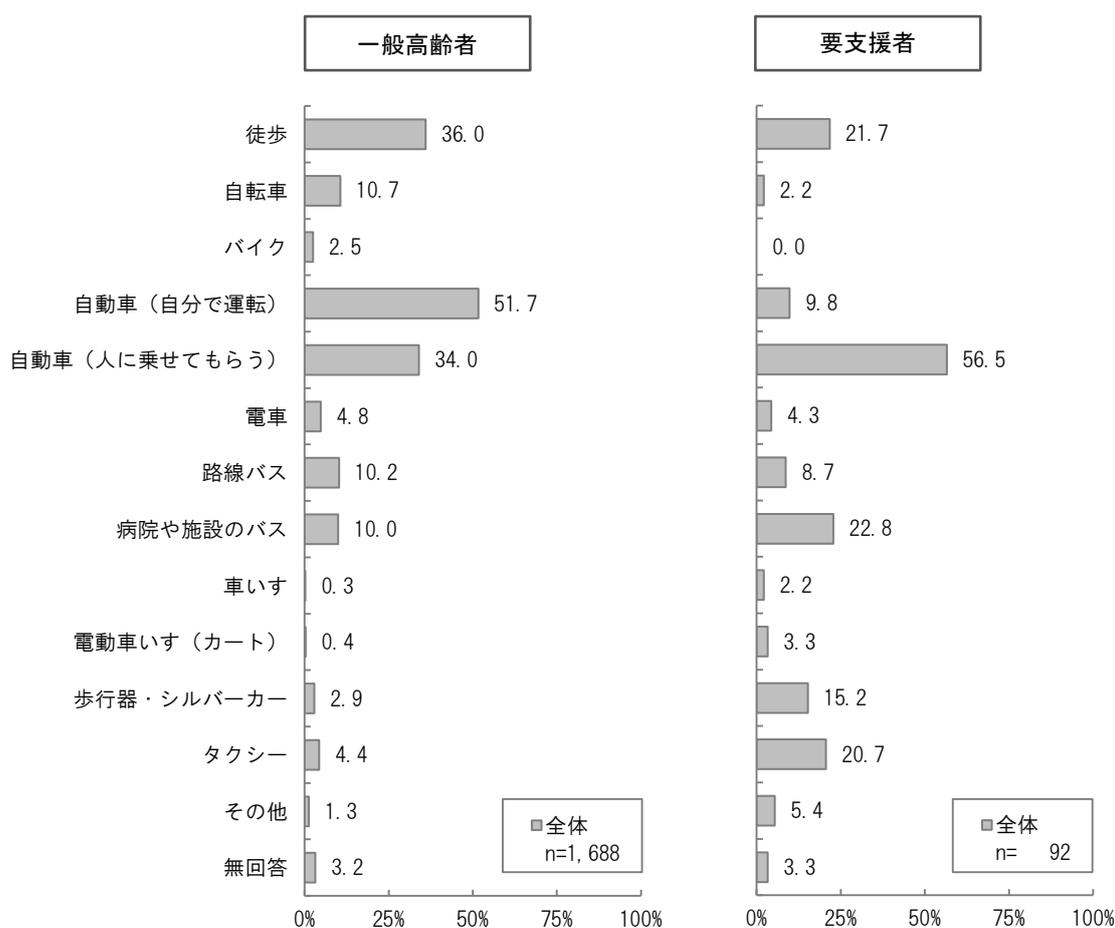
問2-(8).① 外出を控えている理由



○外出する際の移動手段では、一般高齢者は「自動車（自分で運転）」（51.7%）が最も多く、次いで「徒歩」（36.0%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（34.0%）、「自転車」（10.7%）、「路線バス」（10.2%）、「病院や施設のバス」（10.0%）の順となっています。

○一方、要支援者は「自動車（人に乗せてもらう）」（56.5%）が最も多く、次いで「病院や施設のバス」（22.8%）、「徒歩」（21.7%）、「タクシー」（20.7%）、「歩行器・シルバーカー」（15.2%）の順となり、前者と比べて「自動車（人に乗せてもらう）」「病院や施設のバス」「車いす」「電動車いす（カート）」「歩行器・シルバーカー」「タクシー」の利用が多くなっています。

問2-(9) 外出する際の移動手段

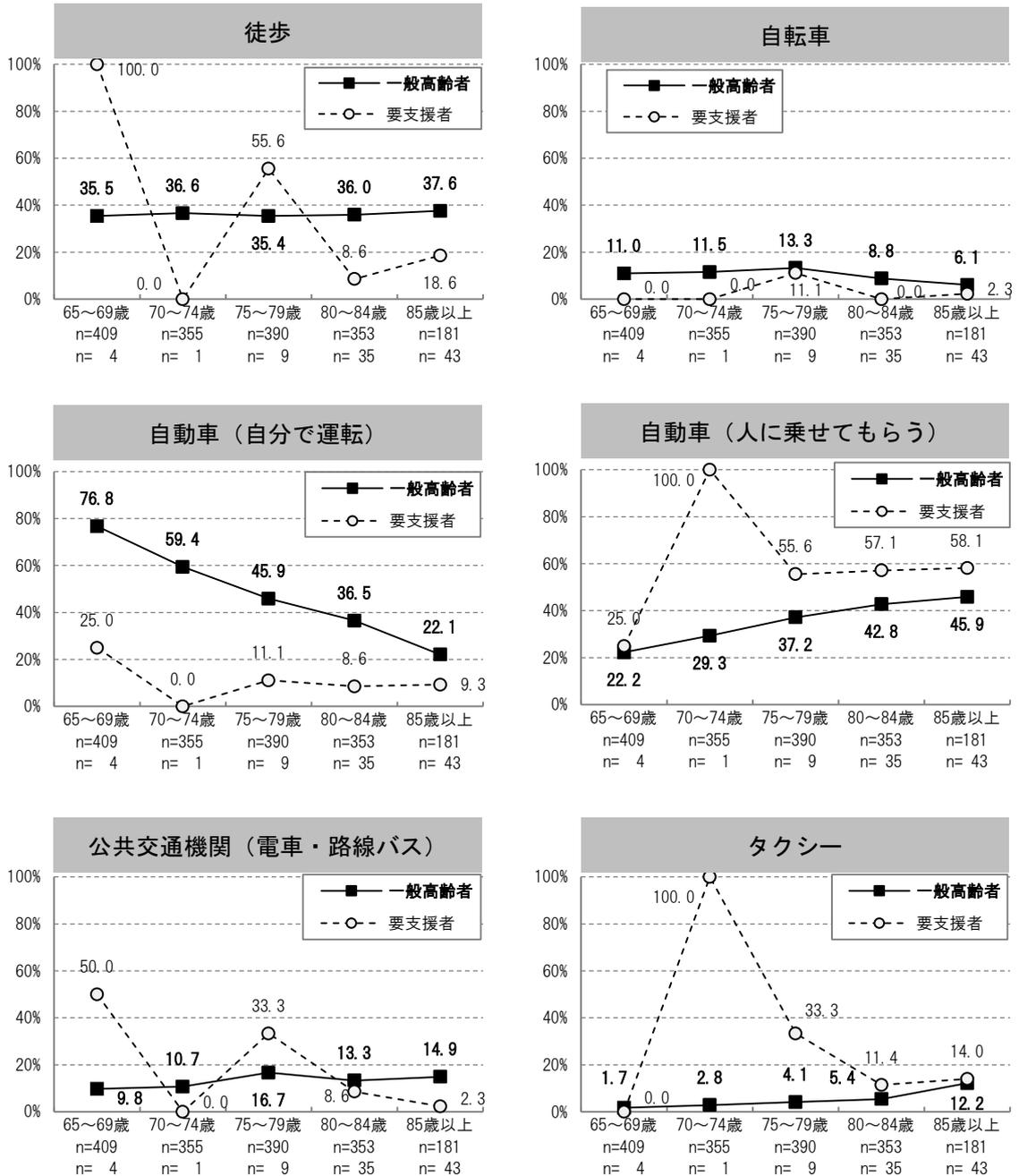


○外出する際の移動手段をそれぞれ年齢階級別にみると、「徒歩」では、一般高齢者のすべての年齢階級で30%台で推移しています。

○「自動車（自分で運転）」では、一般高齢者は加齢とともに割合が減少しています。

○「自動車（人に乗せてもらう）」では、一般高齢者は加齢とともに割合が上昇しています。

問2-(9) 年齢階級別移動手段



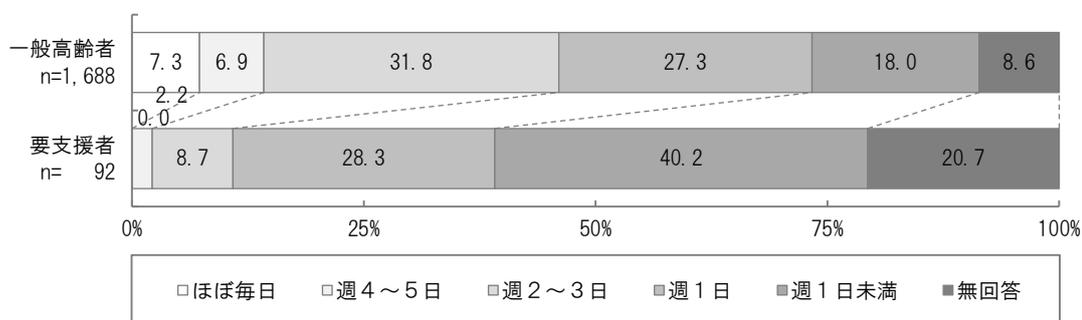
○買物で外出する頻度では、一般高齢者は「週2～3日」(31.8%)が最も多く、次いで「週1日」(27.3%)、「週1日未満」(18.0%)の順となっています。

○一方、要支援者は「週1日未満」(40.2%)が最も多く、次いで「週1日」(28.3%)の順となり、前者が「週2～3日」で23.1<sup>ポイント</sup>、後者が「週1日未満」で22.2<sup>ポイント</sup>高くなっています。

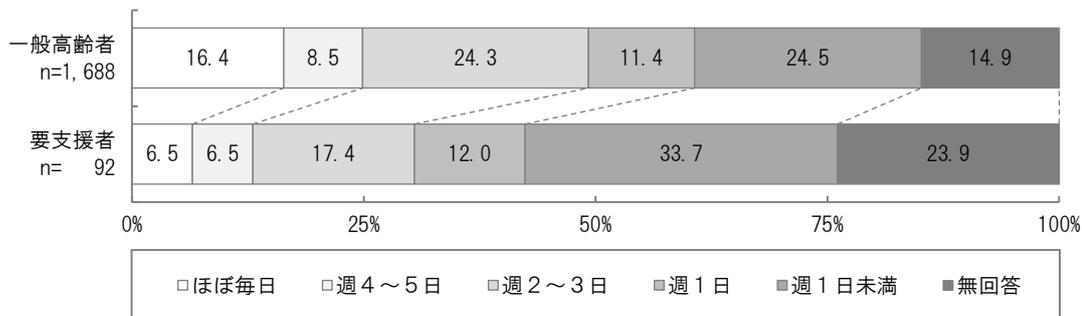
○散歩で外出する頻度では、一般高齢者は「週1日未満」(24.5%)が最も多く、次いで「週2～3日」(24.3%)、「ほぼ毎日」(16.4%)、「週1日」(11.4%)の順となっています。

○一方、要支援者は「週1日未満」(33.7%)が最も多く、次いで「週2～3日」(17.4%)、「週1日」(12.0%)の順となり、前者が「週2～3日」で6.9<sup>ポイント</sup>、後者が「週1日未満」で9.2<sup>ポイント</sup>高くなっています。

問2-(10). ① 買物で外出する頻度



問2-(10). ② 散歩で外出する頻度

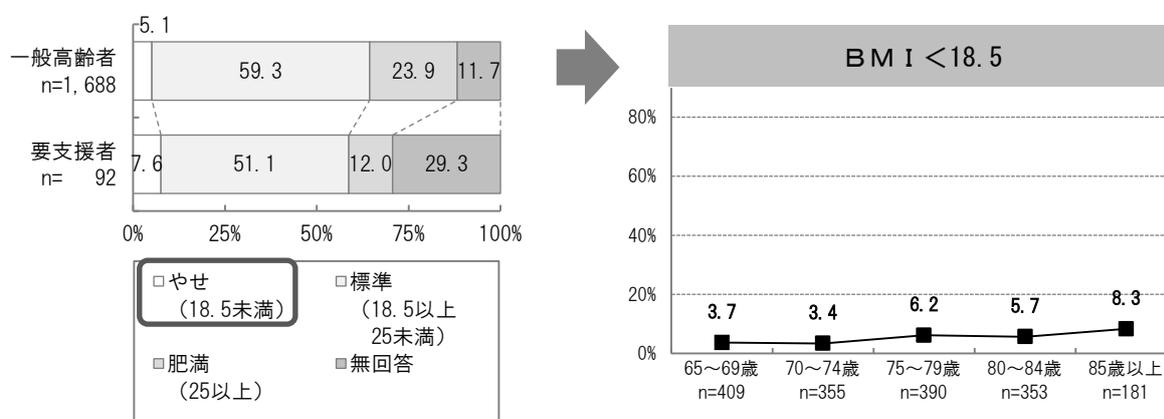


### 3 食べることについて

#### (1) 現在の肥満（BMI）状況

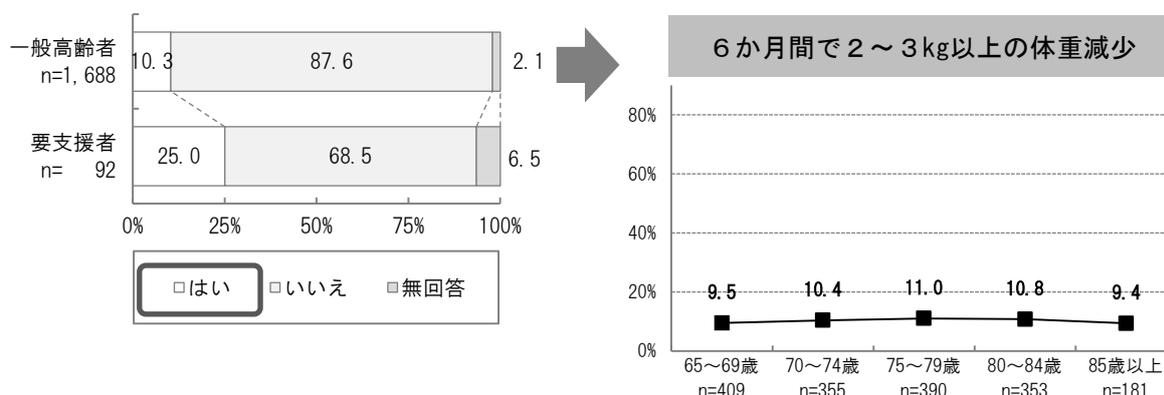
- 高齢者の肥満状況をBMIで見ると、一般高齢者は「やせ（18.5未満）」の方が5.1%、その該当者を年齢階級別にみるとすべての年齢階級で10%未満となっています。
- 一方、要支援者は「やせ（18.5未満）」が7.6%となっており、前者を上回っています。
- 6か月間で2～3kg以上の体重減少があると回答した方は、一般高齢者で10.3%、その該当者を年齢階級別にみるとすべての年齢階級で10%前後となっています。
- 一方、要支援者は25.0%となっており、前者を大きく上回っています。

問3-(1) 肥満（BMI）



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問3-(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

(2) 歯・口腔の状況

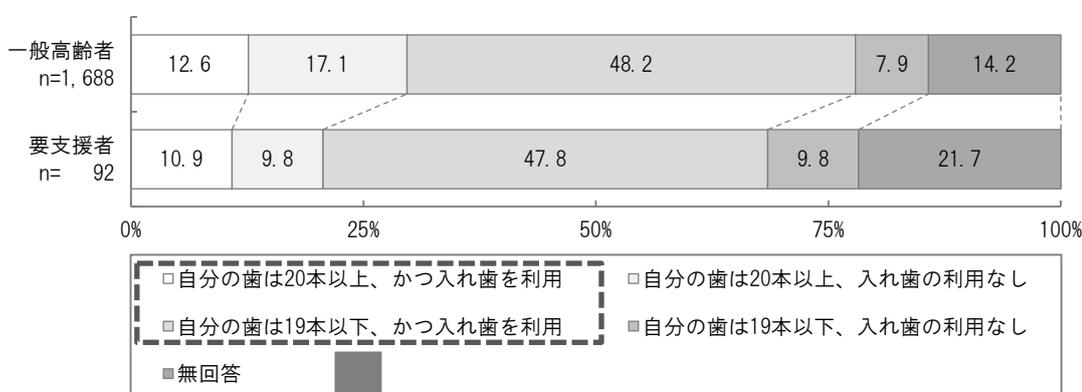
○歯の数と入れ歯の利用状況をみると、一般高齢者は「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(12.6%)と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(48.2%)を合わせた60.8%が入れ歯を利用している状況です。

○一方、要支援者は「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(10.9%)と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(47.8%)を合わせ58.7%となり、前者の割合を下回っています。

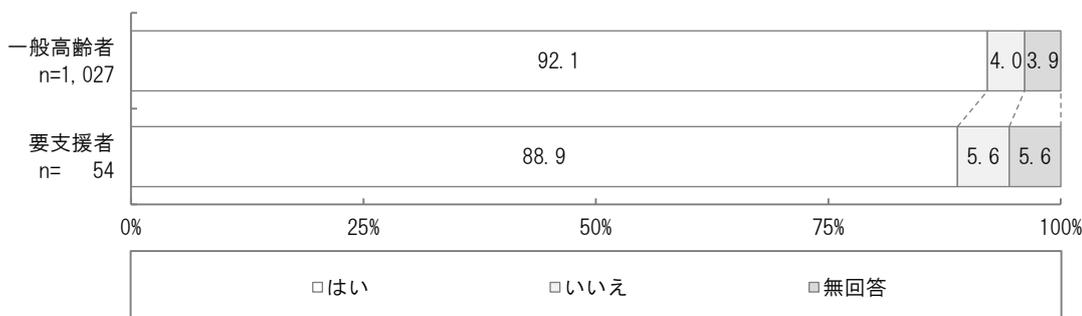
○毎日入れ歯の手入れをしているかでは、一般高齢者は92.1%が手入れをしています。

○一方、要支援者は88.9%となっており、前者より3.2%下回っています。

問3-(3) 歯の数と入れ歯の利用状況



問3-(3).① 毎日入れ歯の手入れをしているか



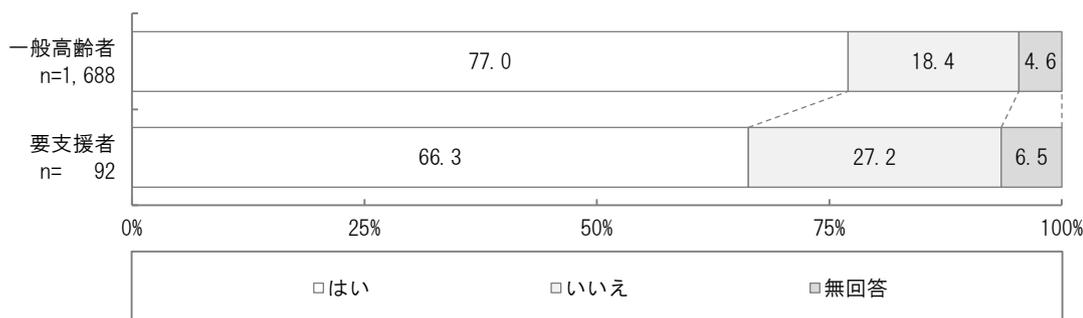
○噛み合わせについてみると、一般高齢者は77.0%、要支援者は66.3%が「はい」と回答し、前者と比べ噛み合わせの悪い方が10.7<sup>ポイント</sup>高くなっています。

○歯磨きを毎日しているかでは、一般高齢者は88.2%、要支援者は84.8%が「はい」と回答し、前者と比べて3.4<sup>ポイント</sup>低くなっています。

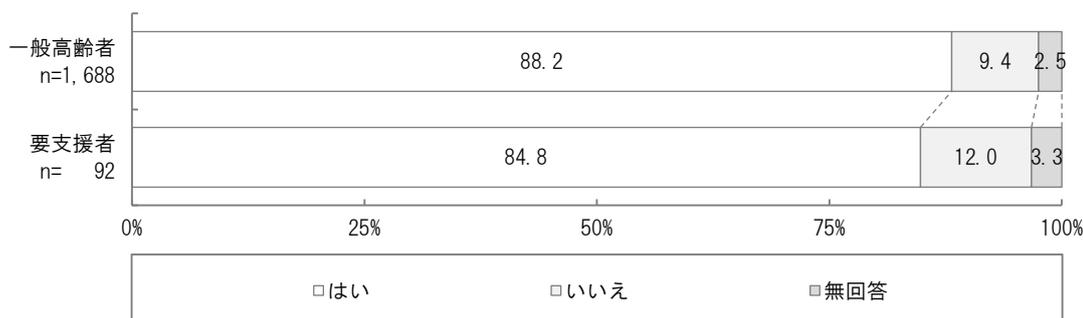
○半年前に比べて固いものが食べにくくなったかでは、一般高齢者は「はい」が35.4%、その該当者を年齢階級別にみると75歳から加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は51.1%が「はい」となっており、前者を上回っています。

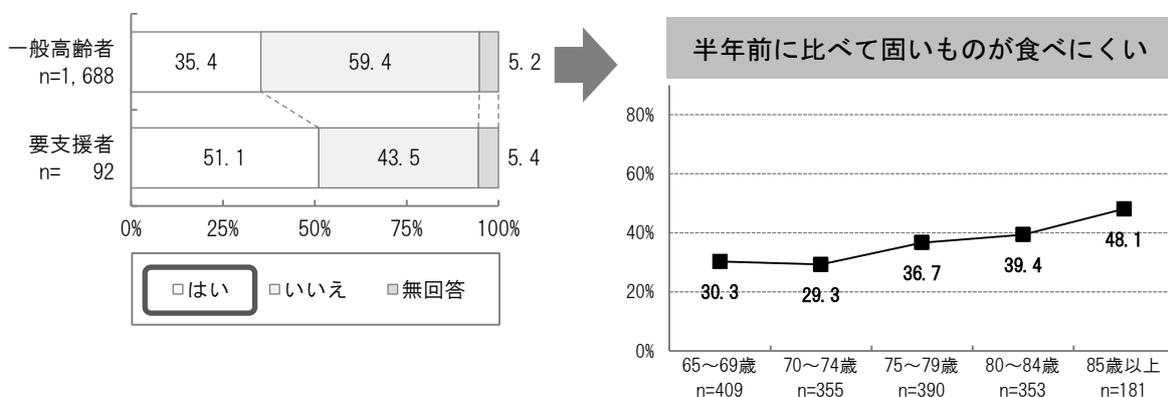
問3-(3).② 噛み合わせは良いか



問3-(7) 歯磨きを毎日しているか



問3-(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなった



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

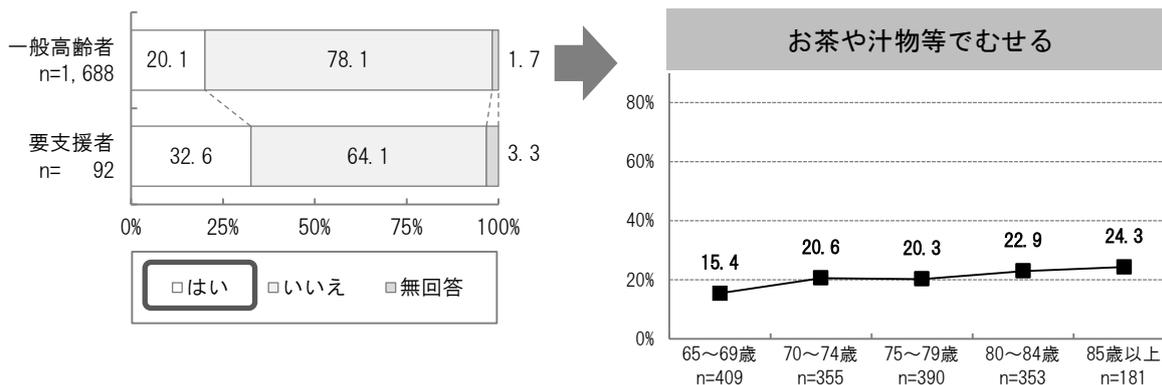
○お茶や汁物等でむせることの有無では、一般高齢者は20.1%があると回答し、その該当者を年齢階級別にみると70歳から20%台で推移しています。

○一方、要支援者は32.6%があると回答しており、前者を上回っています。

○口の渇きが気になるかでは、一般高齢者は「はい」が23.3%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

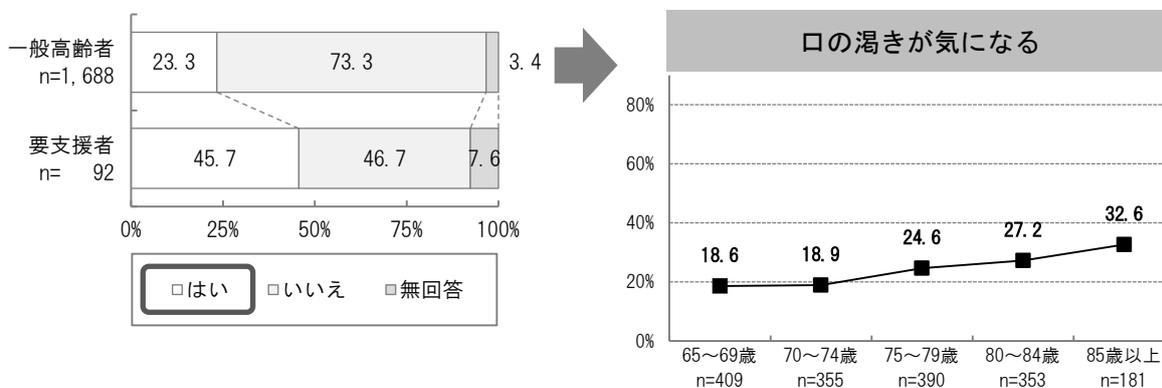
○一方、要支援者は45.7%が気になると回答しており、前者を上回っています。

問3-(5) お茶や汁物等でむせることの有無



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問3-(6) 口の渇きが気になるか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

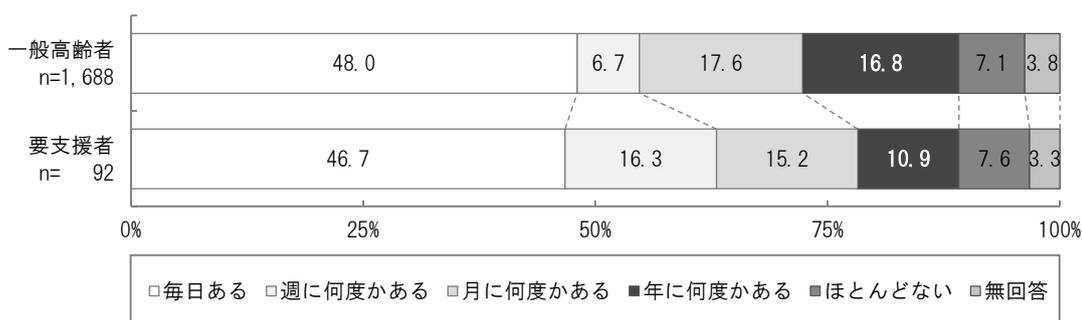
### (3) 食事の状況

○どなたかと食事をともしる機会の有無をみると、一般高齢者は「毎日ある」(48.0%)が最も多く、次いで「月に何度かある」(17.6%)、「年に何度かある」(16.8%)の順となっています。

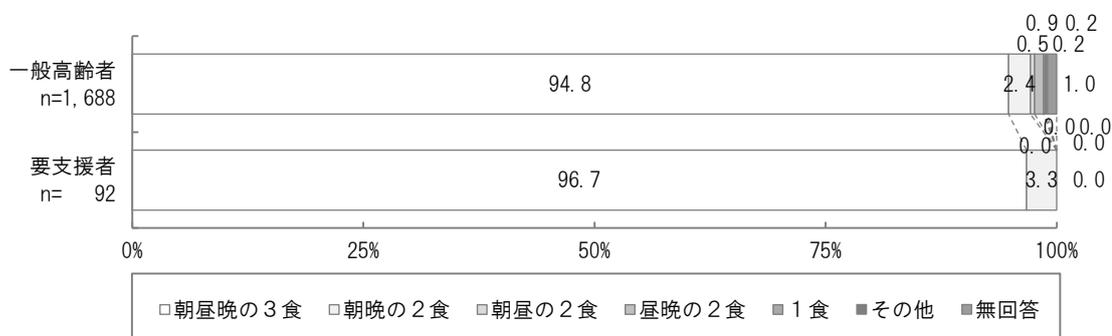
○一方、要支援者は「毎日ある」(46.7%)が最も多く、次いで「週に何度かある」(16.3%)、「月に何度かある」(15.2%)、「年に何度かある」(10.9%)の順となり、前者と比べて「毎日ある」は1.3ポイント低くなっています。

○1日の食事の回数では、一般高齢者・要支援者ともに「朝昼晩の3食」(94.8%・96.7%)が最も多くなっています。

問3-(4) どなたかと食事をともしる機会の有無



問3-(9) 1日の食事の回数

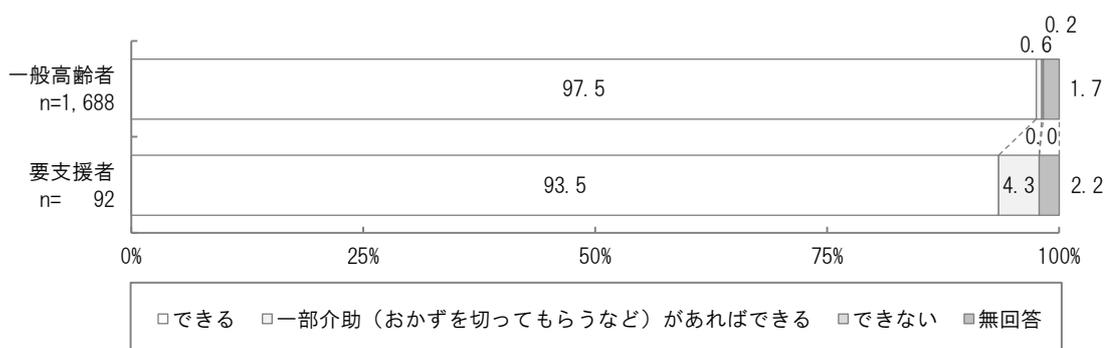


○食事は自分で食べられるかでは、一般高齢者・要支援者とも「できる」(97.5%・93.5%)が最も多くなっています。

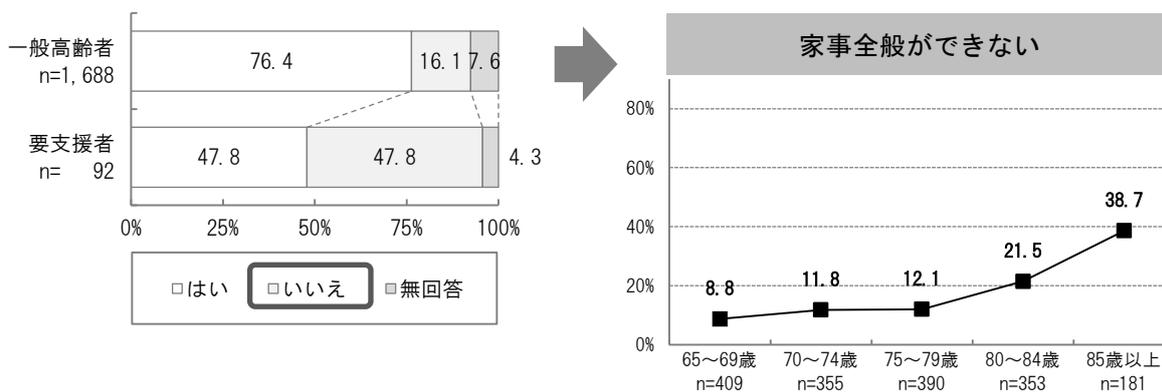
○家事全般ができていないかでは、一般高齢者は「いいえ」が16.1%、その該当者を年齢階級別にみると80歳から割合が大きく上昇します。

○一方、要支援者は47.8%ができないと回答しており、前者を大きく上回っています。

問4-(22) 食事は自分で食べられるか



問4-(23) 家事全般ができていないか



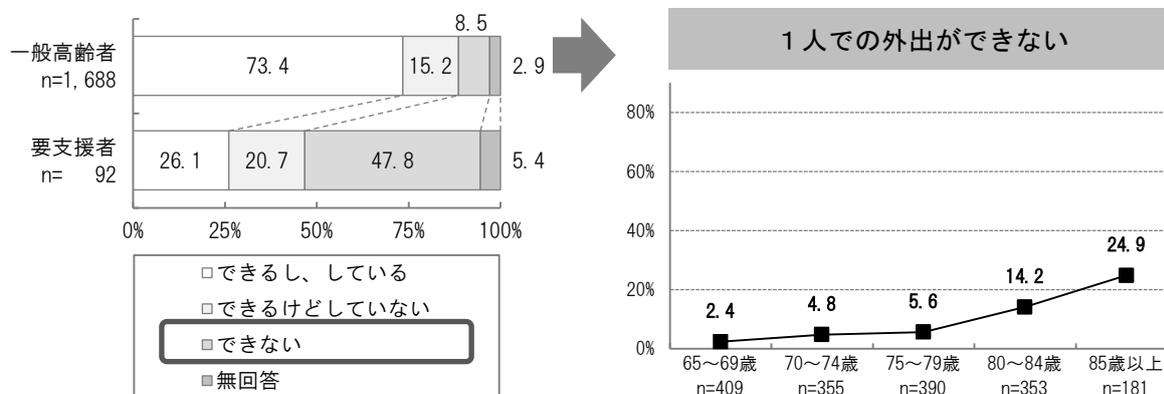
※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

## 4 毎日の生活について

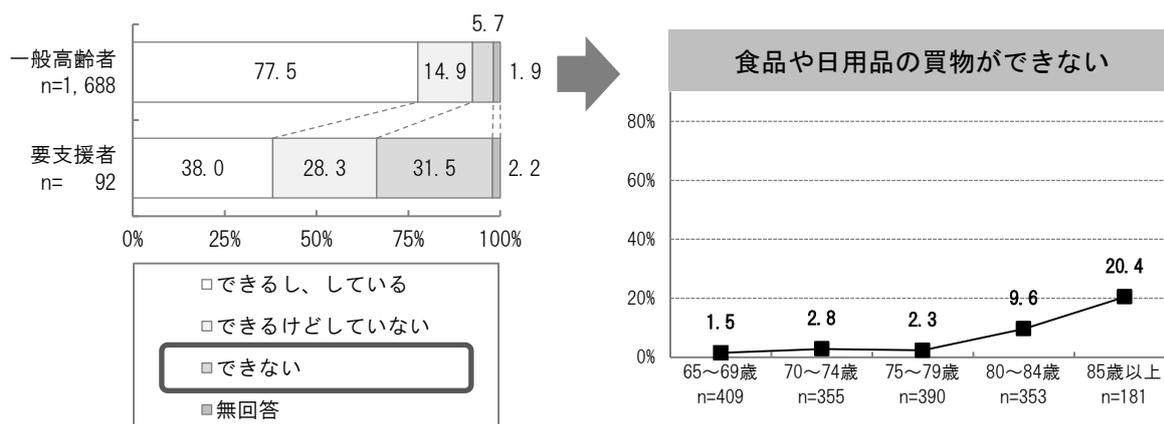
### (1) IADL（手段的自立度）の状況

- バスや電車を使って1人で外出しているかをみると、一般高齢者は「できない」が8.5%、その該当者を年齢階級別にみると80歳から割合が大きくなり上昇します。
- 一方、要支援者は「できない」が47.8%となっており、前者を大きく上回っています。
- 自分で食品・日用品の買物をしているかでは、一般高齢者は「できない」が5.7%、その該当者を年齢階級別にみると85歳以上で割合が大きくなり上昇します。
- 一方、要支援者は「できない」が31.5%となっており、前者を大きく上回っています。

問4-(2) バスや電車を使って1人で外出しているか



問4-(3) 自分で食品・日用品の買物をしているか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○食品・日用品の買物をする人では、一般高齢者は「同居の家族」(86.2%)が最も多くなっています。

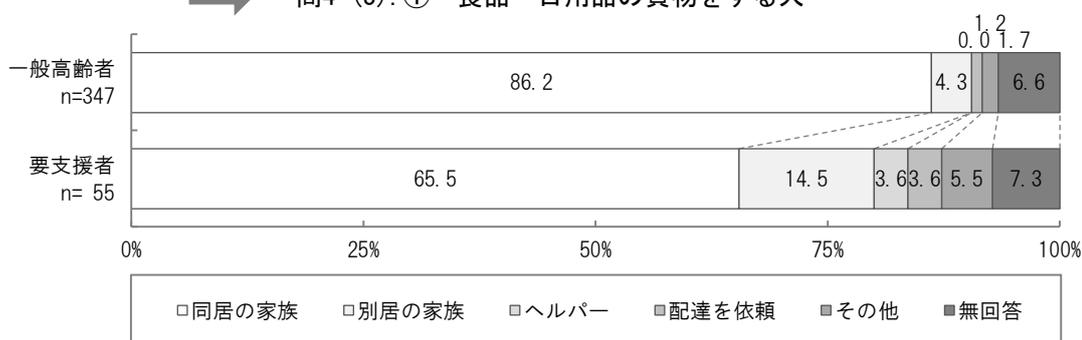
○一方、要支援者は「同居の家族」(65.5%)が最も多く、次いで「別居の家族」(14.5%)となり、前者と比べて「別居の家族」で10.2<sup>ポイント</sup>高くなっています。

○自分で食事の用意をしているかでは、一般高齢者は「できない」が7.9%、その該当者を年齢階級別にみると85歳以上で割合が大きく上昇します。

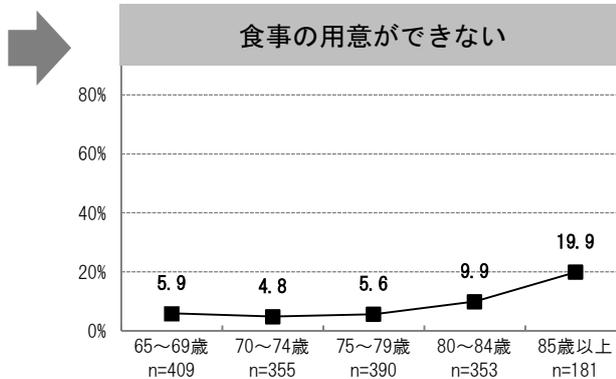
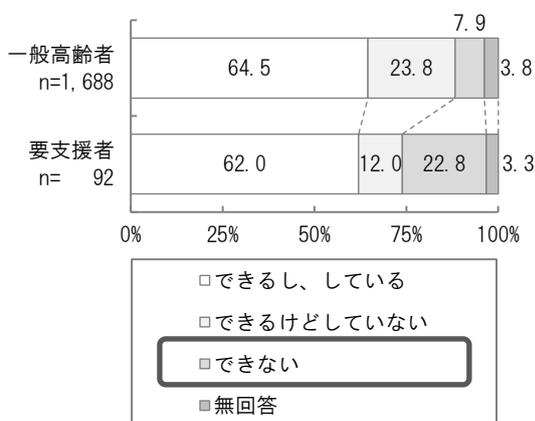
○一方、要支援者は「できない」が22.8%となっており、前者を大きく上回っています。

問4-(3)において  
「2.できるけどしていない」「3.できない」に回答の方

問4-(3).① 食品・日用品の買物をする人

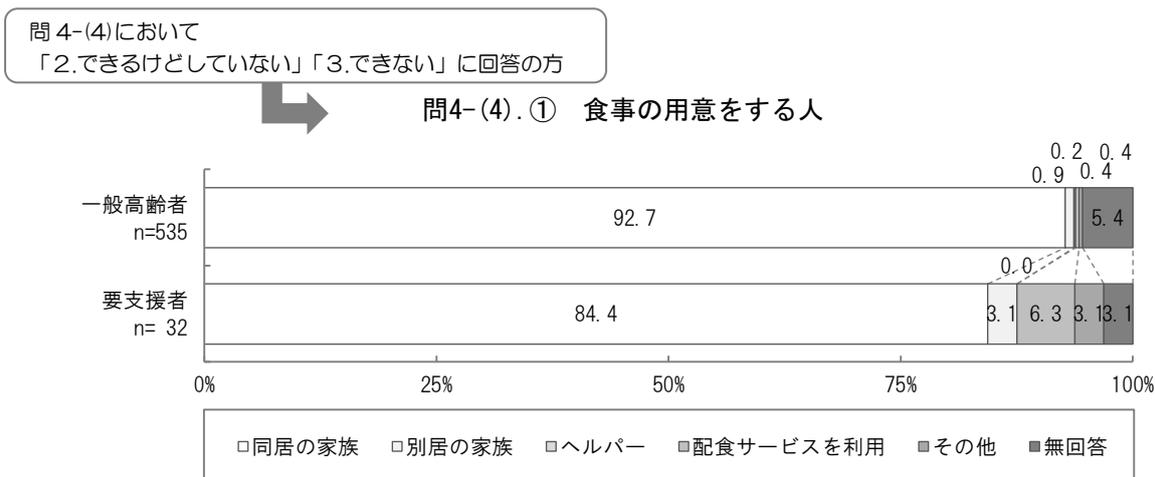


問4-(4) 自分で食事の用意をしているか

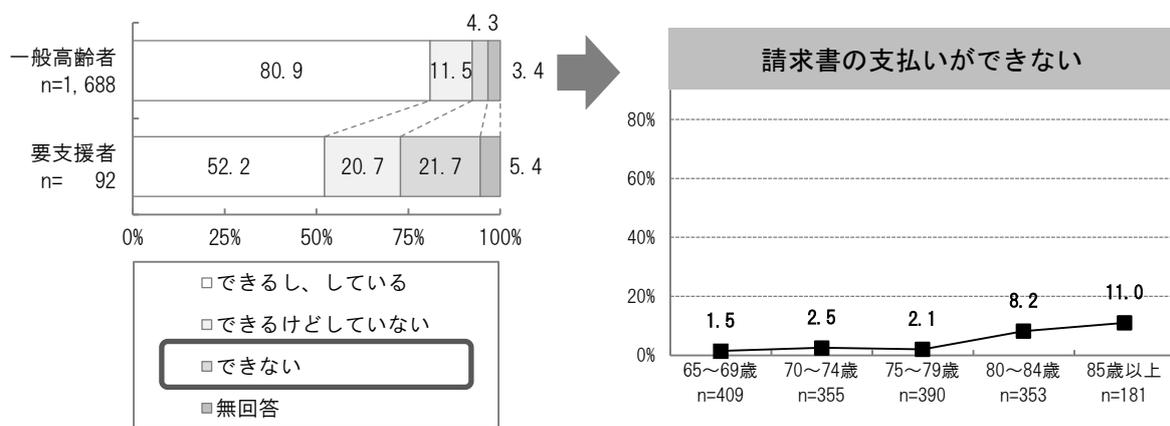


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

- 食事の用意をする人では、一般高齢者は「同居の家族」(92.7%) が最も多くなっています。
- 一方、要支援者は「同居の家族」(84.4%) が最も多く、次いで「配食サービスを利用」(6.3%)、「別居の家族」(3.1%) となり、前者と比べて「配食サービスを利用」は5.9<sup>ポイント</sup> 高くなっています。
- 自分で請求書の支払いをしているかでは、一般高齢者は「できない」が4.3%、その該当者を年齢階級別にみると80歳から割合が大きく上昇します。
- 一方、要支援者は「できない」が21.7%となっており、前者を大きく上回っています。



問4-(5) 自分で請求書の支払いをしているか

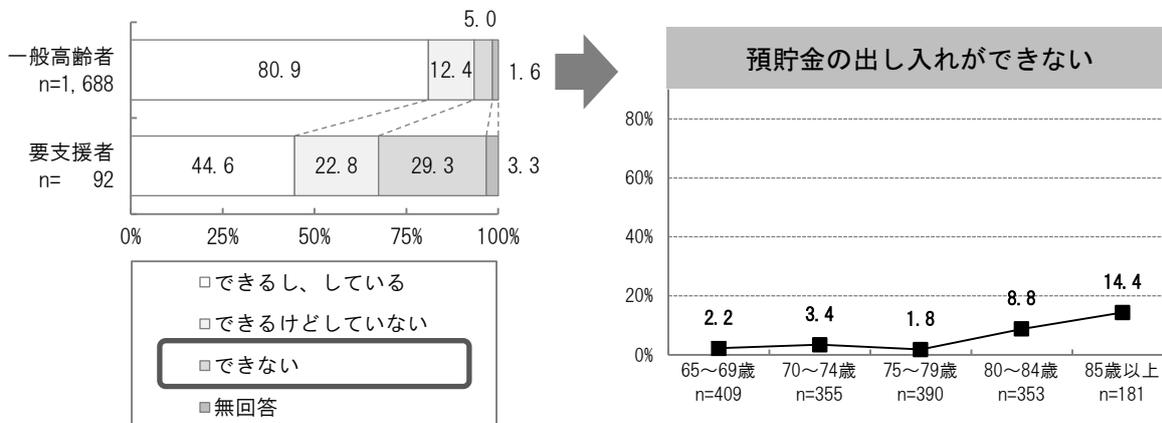


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○自分で預貯金の出し入れをしているかでは、一般高齢者は「できない」が5.0%、その該当者を年齢階級別にみると80歳から割合が大きく上昇します。

○一方、要支援者は「できない」が29.3%となっており、前者を大きく上回っています。

問4-(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか



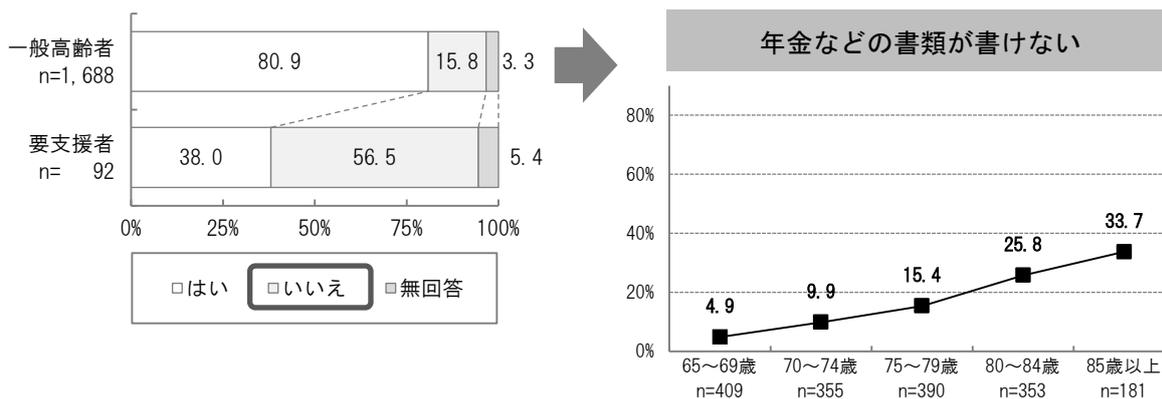
※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

## (2) 社会参加（知的能動性）の状況

○年金などの書類が書けるかでは、一般高齢者は「いいえ」が15.8%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「いいえ」が56.5%となっており、前者を大きく上回っています。

問4-(9) 年金などの書類が書けるか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

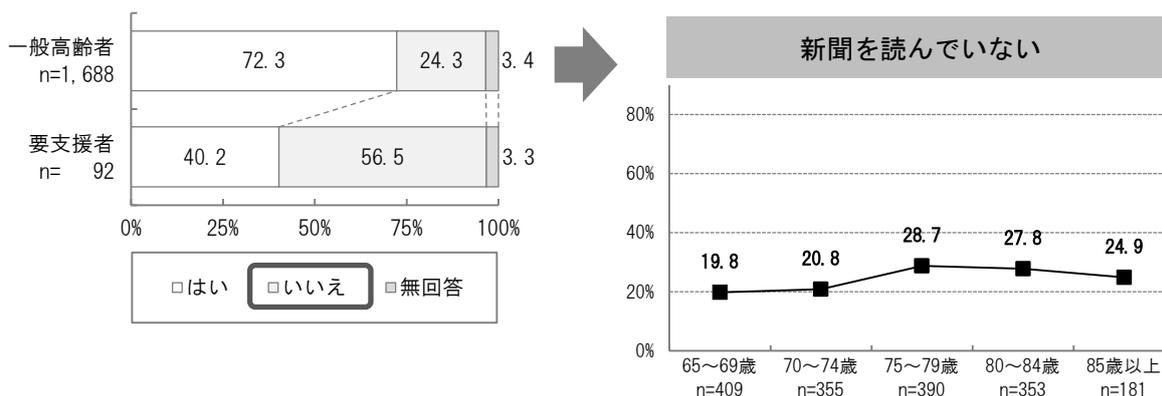
○新聞を読んでいるかでは、一般高齢者は「いいえ」が24.3%、その該当者を年齢階級別にみるとすべての年齢階級で20%前後となっています。

○一方、要支援者は「いいえ」が56.5%となっており、前者を大きく上回っています。

○本や雑誌を読んでいるかをみると、一般高齢者は「いいえ」が28.6%、その該当者を年齢階級別にみると80~84歳まで割合が高くなっています。

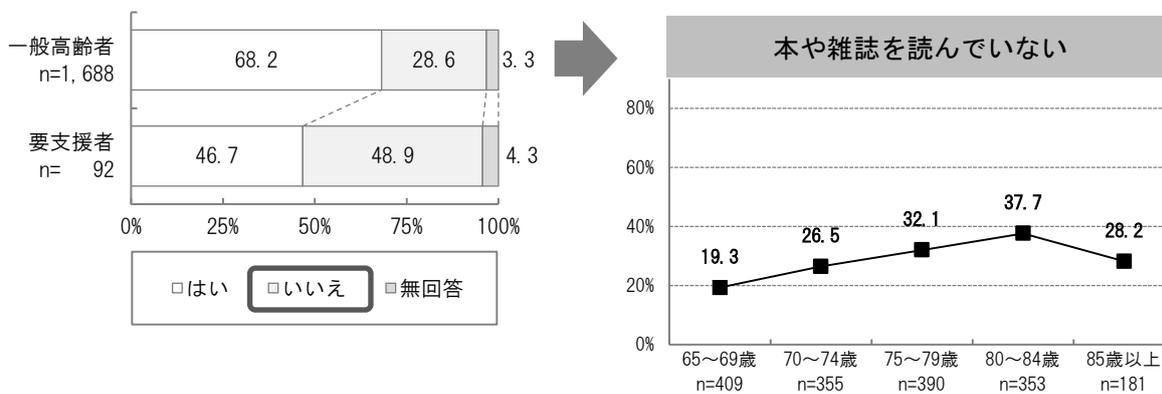
○一方、要支援者は「いいえ」が48.9%となっており、前者を上回っています。

問4-(10) 新聞を読んでいるか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問4-(11) 本や雑誌を読んでいるか

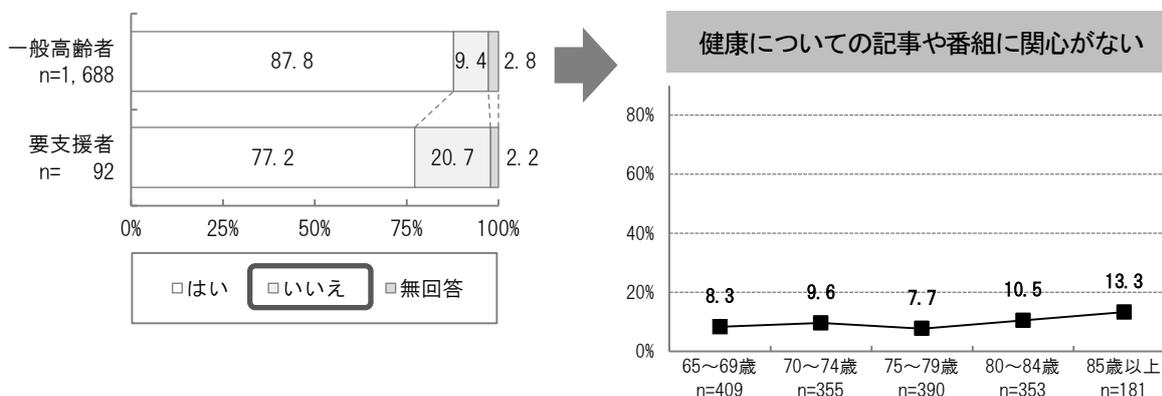


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○健康についての記事や番組に関心があるかでは、一般高齢者は「いいえ」が9.4%、その該当者を年齢階級別にみるとすべての年齢階級で10%前後と関心が低い状況です。

○一方、要支援者は「いいえ」が20.7%となっており、前者を上回っています。

問4-(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか



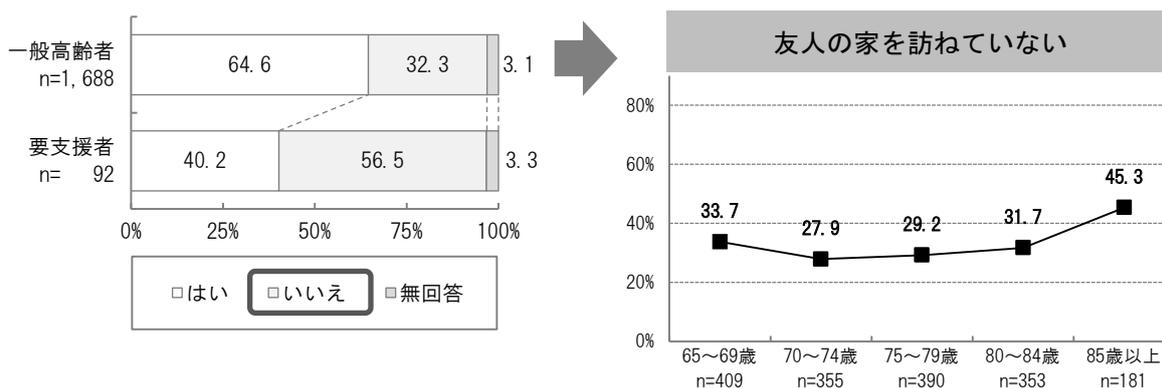
※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

### (3) 社会参加（社会的役割）の状況

○友人の家を訪ねているかでは、一般高齢者は「いいえ」が32.3%、その該当者を年齢階級別にみると85歳以上で40%を超え高くなっています。

○一方、要支援者は「いいえ」が56.5%となっており、前者を上回っています。

問4-(13) 友人の家を訪ねているか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

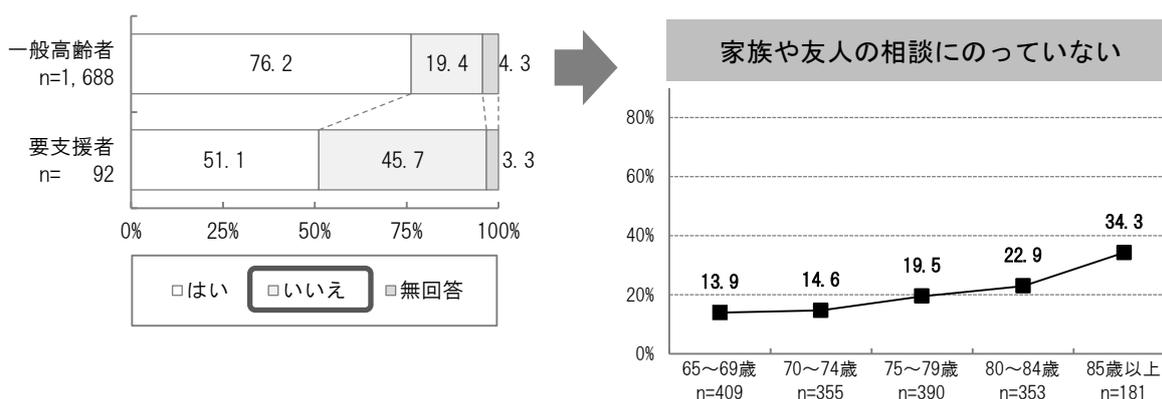
○家族や友人の相談にのっているかでは、一般高齢者は「いいえ」が19.4%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「いいえ」が45.7%となっており、前者を大きく上回っています。

○病人を見舞うことができるかでは、一般高齢者は「いいえ」が8.7%、その該当者を年齢階級別にみると80歳から割合が高くなっています。

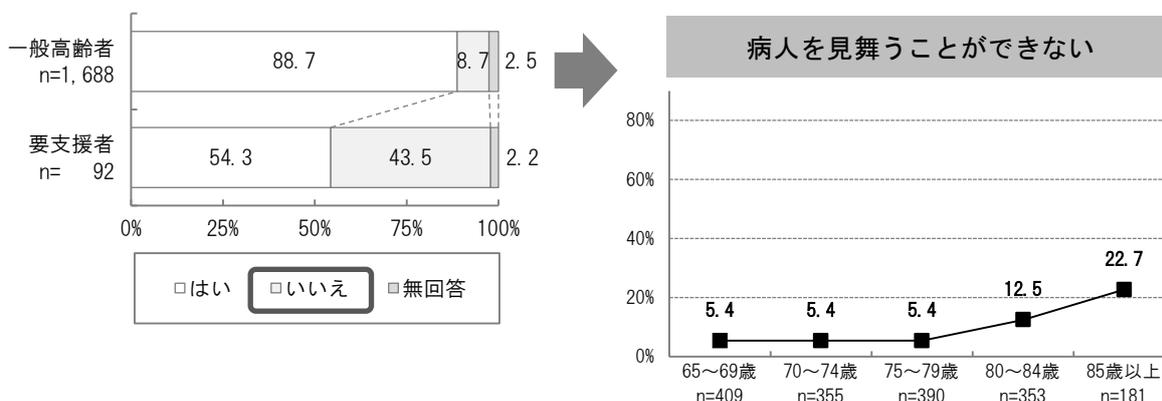
○一方、要支援者は「いいえ」が43.5%となっており、前者を大きく上回っています。

問4-(14) 家族や友人の相談にのっているか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問4-(15) 病人を見舞うことができるか

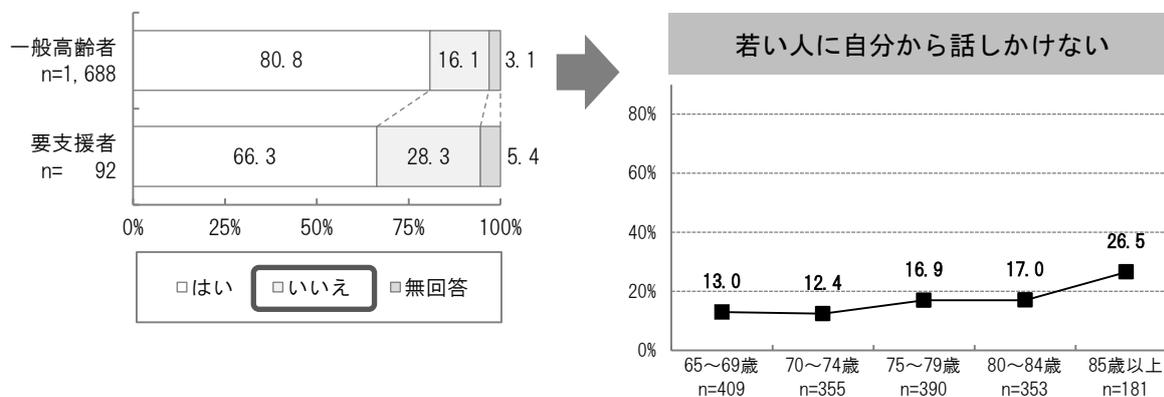


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○若い人に自分から話しかけることはあるかでは、一般高齢者は「いいえ」が16.1%、その該当者を年齢階級別にみると75歳から割合が高くなっています。

○一方、要支援者は「いいえ」が28.3%となっており、前者を上回っています。

問4-(16) 若い人に自分から話しかけることはあるか

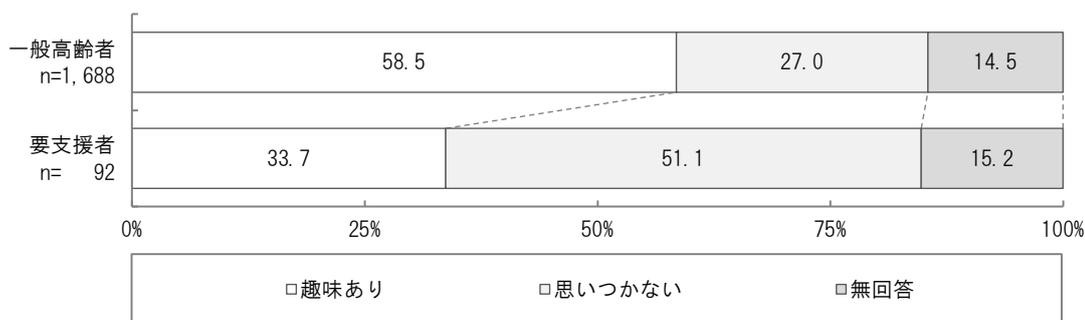


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

#### (4) こころの健康状態

○趣味の有無では、一般高齢者は58.5%、要支援者は33.7%があると回答し、前者と比べて24.8ポイント下回っています。また、要支援者は「思いつかない」の回答が51.1%ありました。

問4-(17) 趣味はあるか

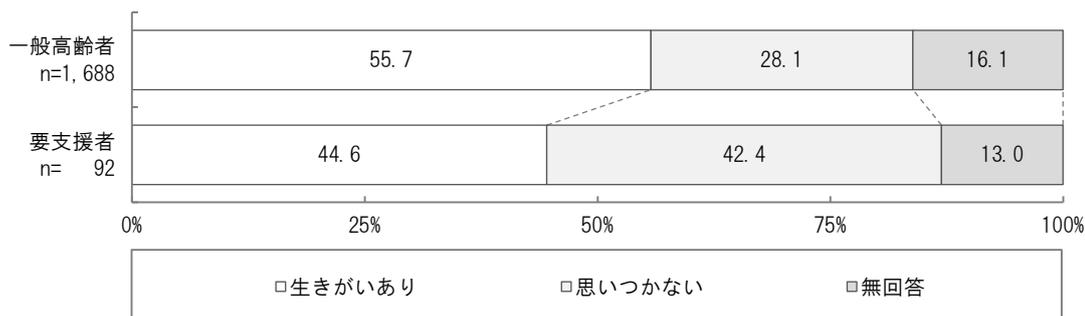


○生きがいの有無では、一般高齢者は55.7%、要支援者は44.6%があると回答し、前者と比べて11.1<sup>ポイント</sup>下回っています。また、要支援者の42.4%が生きがいがないと回答しています。

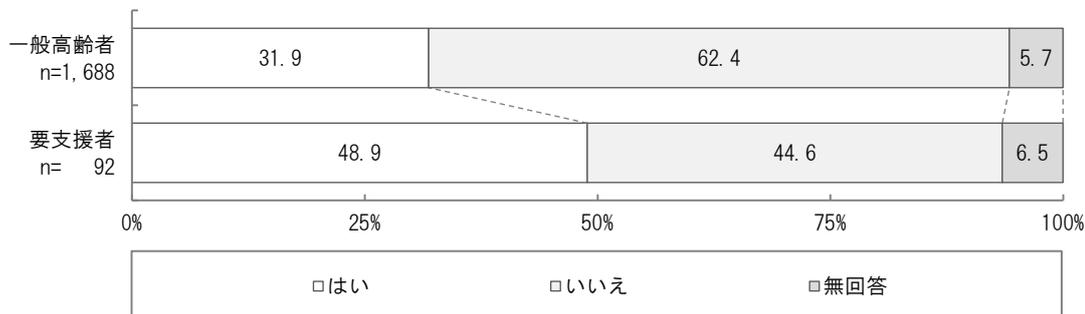
○この1か月間、気分が沈んだりすることの有無では、一般高齢者は31.9%、要支援者は48.9%があったと回答し、前者と比べて17.0<sup>ポイント</sup>高くなっています。

○この1か月間、物事に対して心から楽しめないでは、一般高齢者は22.7%、要支援者は43.5%があったと回答し、前者と比べて20.8<sup>ポイント</sup>高くなっています。

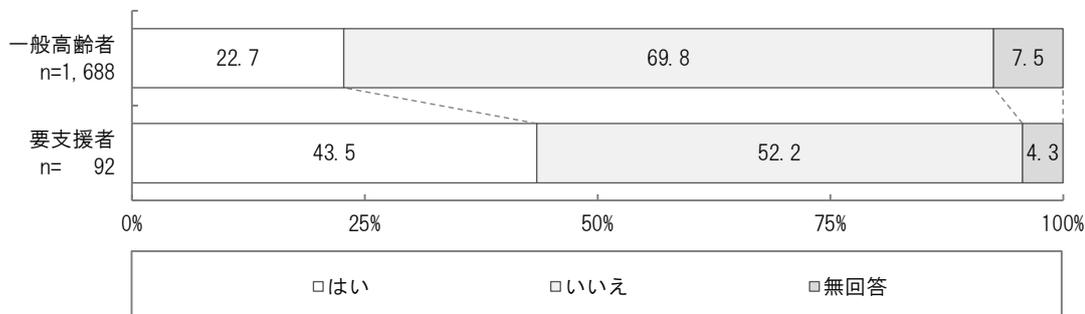
問4-(18) 生きがいはあるか



問7-(3) この1か月間、気分が沈んだりする

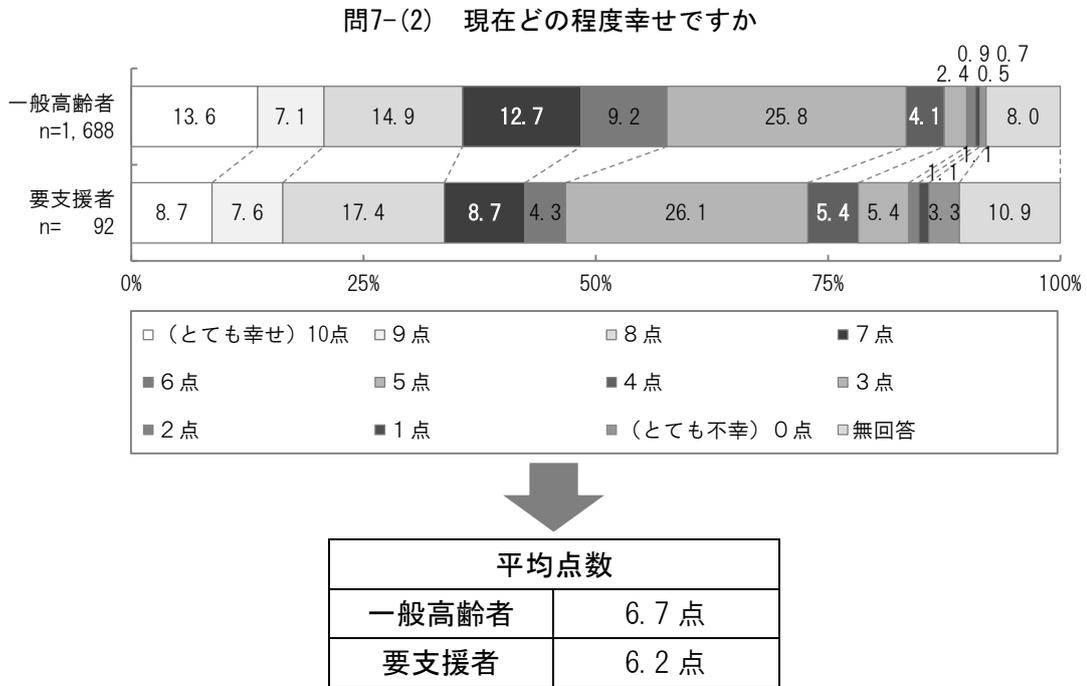


問7-(4) この1か月間、物事に対して心から楽しめない



○現在の主観的幸福感では、一般高齢者は「5点」(25.8%)が最も多く、次いで「8点」(14.9%)、「(とても幸せ)10点」(13.6%)、「7点」(12.7%)の順、平均点数は6.7点となっています。

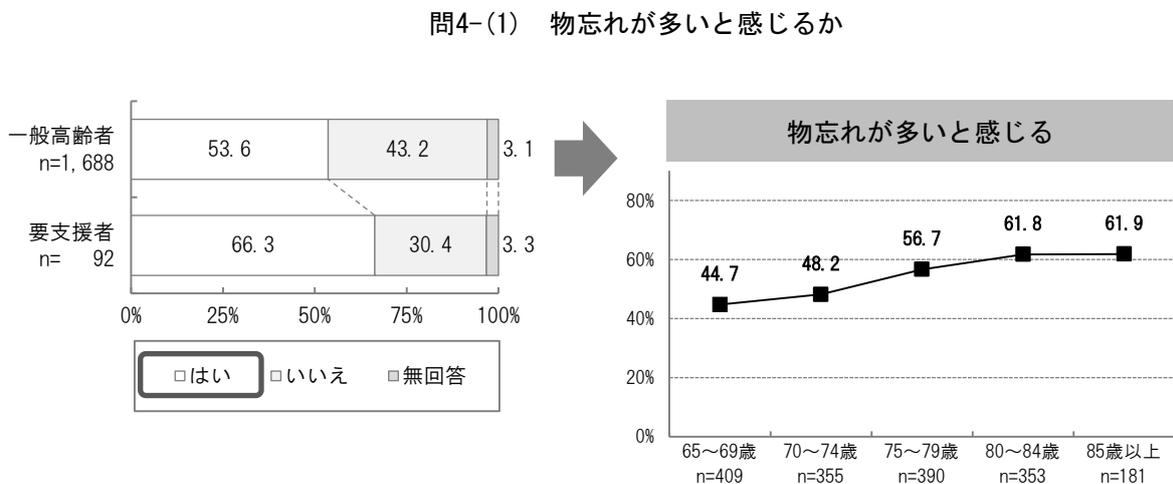
○一方、要支援者は、「5点」(26.1%)が最も多く、次いで「8点」(17.4%)の順、平均点数は6.2点となり、前者と比べて0.5点低くなっています。



### (5) 物忘れの状況

○物忘れが多いと感じるかでは、一般高齢者は53.6%が感じており、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、要支援者は66.3%が感じており、前者を上回っています。



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

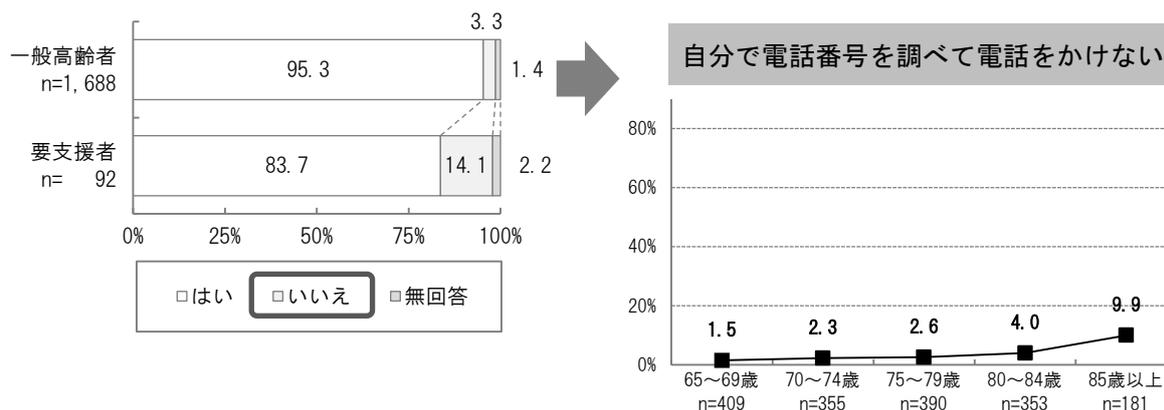
○自分で電話番号を調べて電話をかけるかでは、一般高齢者は「いいえ」が3.3%、その該当者を年齢階級別にみるとすべての年齢階級で10%未満となっています。

○一方、要支援者は「いいえ」が14.1%となっており、前者を大きく上回っています。

○今日が何月何日かわからない時があるかでは、一般高齢者は「はい」が35.1%、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

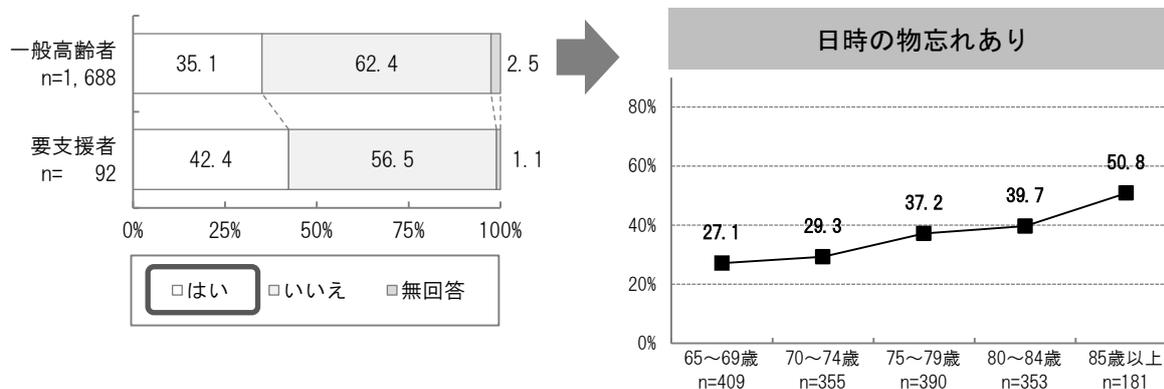
○一方、要支援者のわからない時があるが42.4%となっており、前者を上回っています。

問4-(7) 自分で電話番号を調べて、電話をかけるか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問4-(8) 今日が何月何日かわからない時があるか

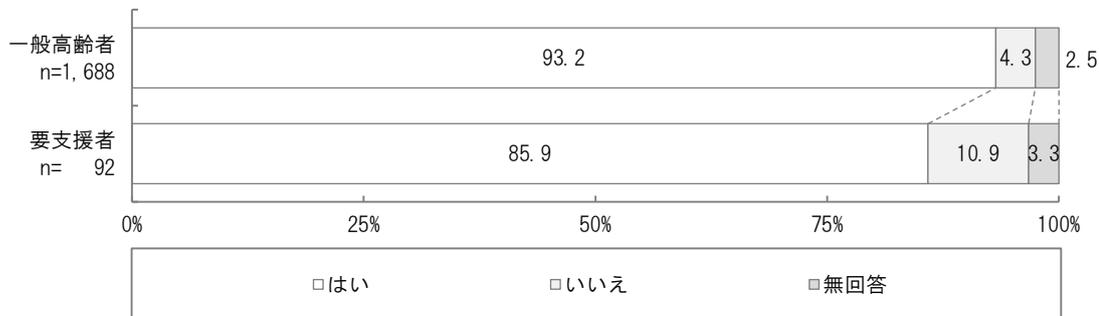


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

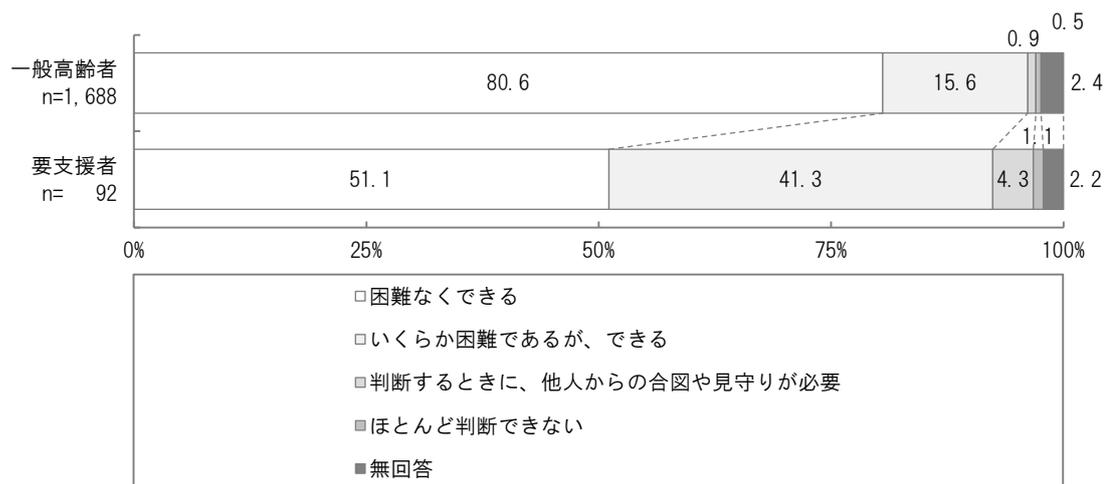
○5分前に自分が何をしていたか思い出せるかでは、一般高齢者は4.3%、要支援者は10.9%が思い出せないと回答し、後者の割合が大きく上回っています。

○その日の活動を自分で判断できるかでは、一般高齢者は0.5%、要支援者は1.1%が「ほとんど判断できない」と回答し、後者の割合が上回っています。

問4-(19) 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか



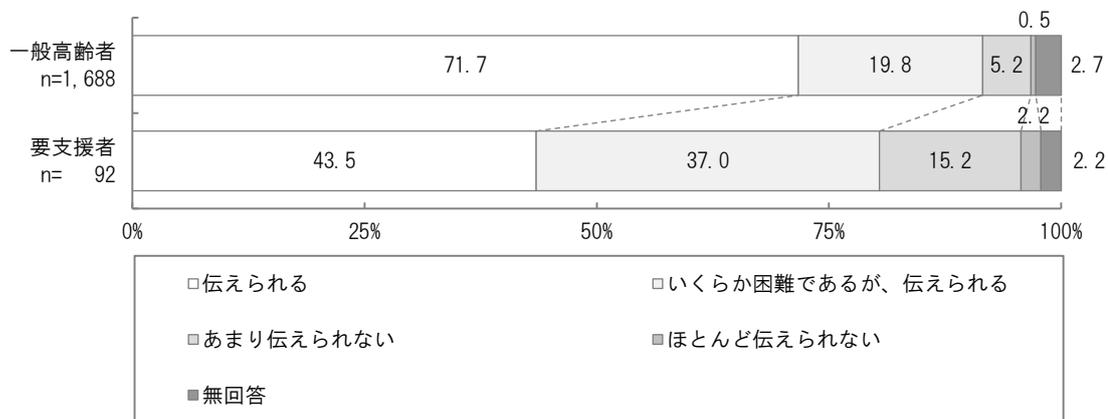
問4-(20) その日の活動を自分で判断できるか



○人に自分の考えをうまく伝えられるかでは、一般高齢者は「あまり伝えられない」(5.2%)と「ほとんど伝えられない」(0.5%)を合わせた5.7%が伝えられない状況です。

○一方、要支援者は、「あまり伝えられない」(15.2%)と「ほとんど伝えられない」(2.2%)の伝えられない方は合わせて17.4%、前者と比べて割合が11.7<sup>ポイント</sup>高くなっています。

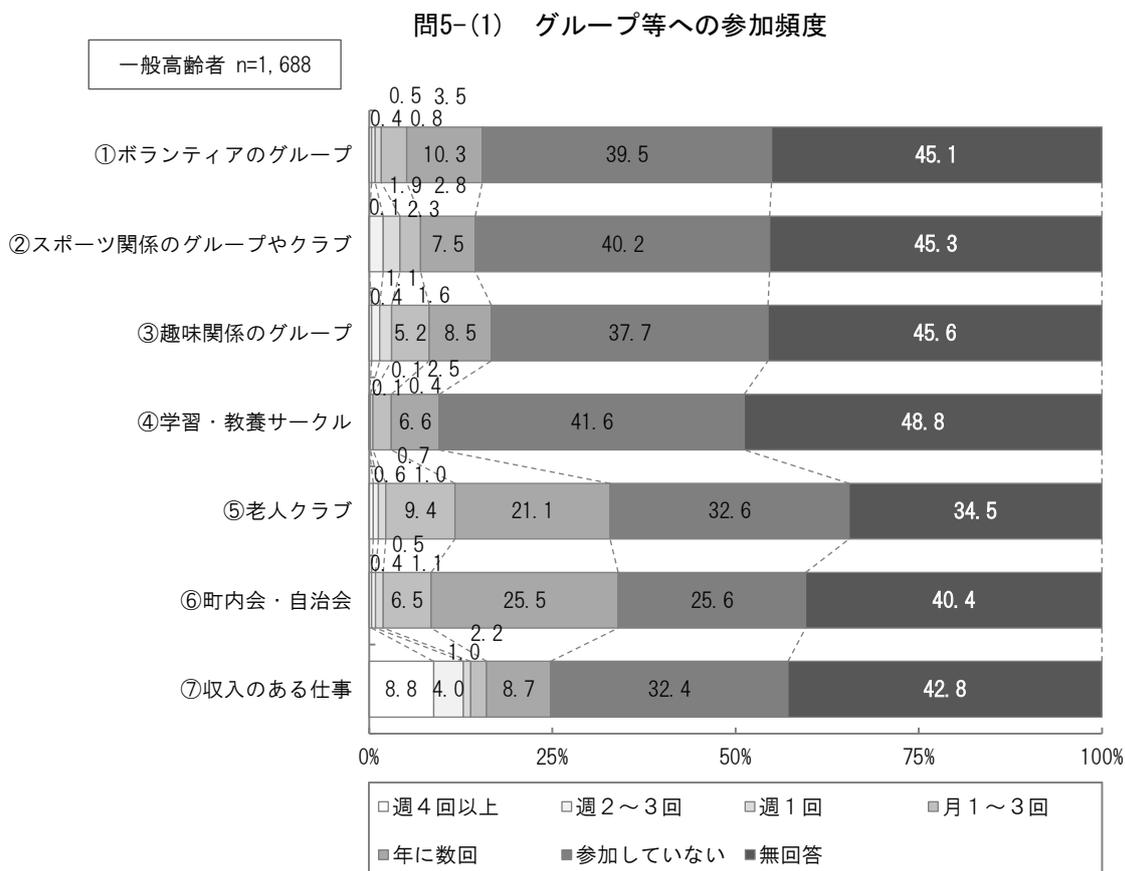
問4-(21) 人に自分の考えをうまく伝えられるか



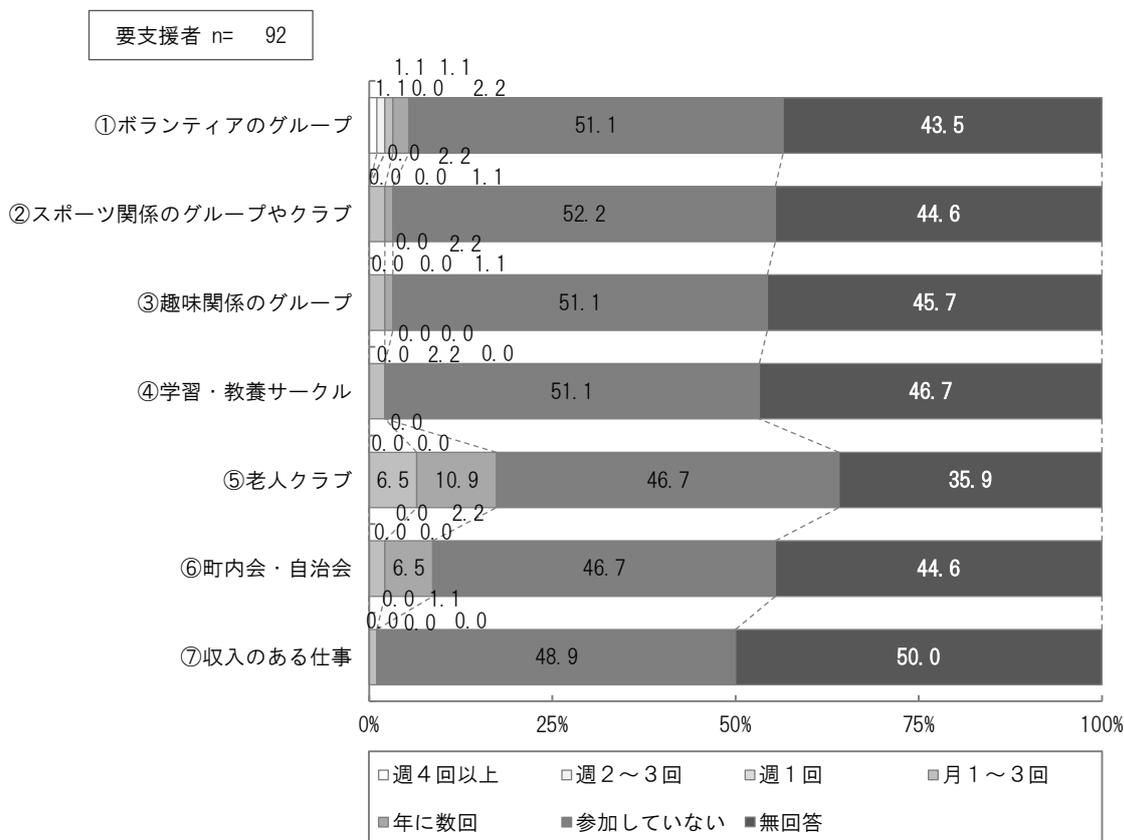
## 5 地域での活動について

### (1) グループ活動等の状況

○グループ等への参加頻度をみると、週1回以上の就労または参加している一般高齢者は「⑦収入のある仕事」(13.8%)、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(4.3%)、「③趣味関係のグループ」(3.1%)の順となっています。



○一方、要支援者は「①ボランティアのグループ」(2.2%) となり、前者に比べてすべての項目で下回っています。

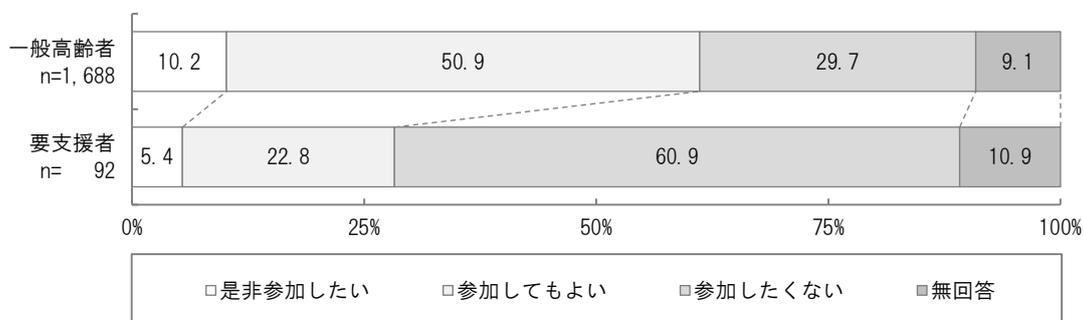


## (2) 地域づくりに対する参加意向

○参加者としてグループ活動等に参加してみたいかでは、一般高齢者は「是非参加したい」(10.2%)と「参加してもよい」(50.9%)を合わせた61.1%が参加の意向です。

○一方、要支援者は「是非参加したい」(5.4%)と「参加してもよい」(22.8%)を合わせた28.2%となり、前者と比べて32.9ポイント下回っています。

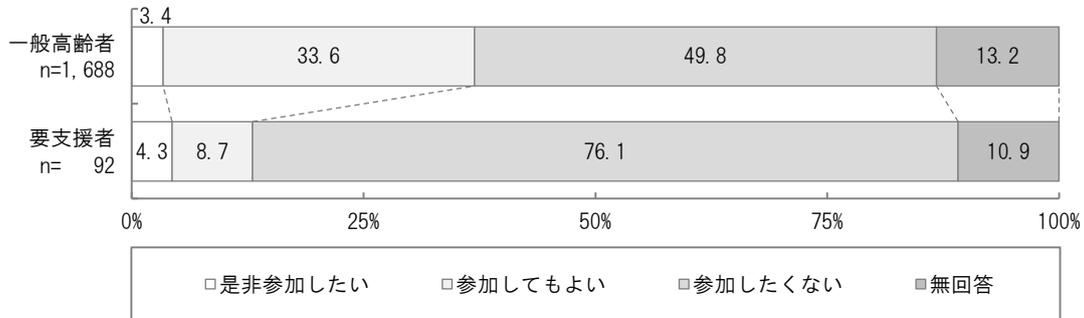
問5-(2) 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか



○企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいかでは、一般高齢者は「是非参加したい」(3.4%)と「参加してもよい」(33.6%)を合わせた37.0%が参加の意向です。

○一方、要支援者は「是非参加したい」(4.3%)と「参加してもよい」(8.7%)を合わせた13.0%となり、前者と比べて24.0<sup>ポイント</sup>下回っています。

問5-(3) 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか

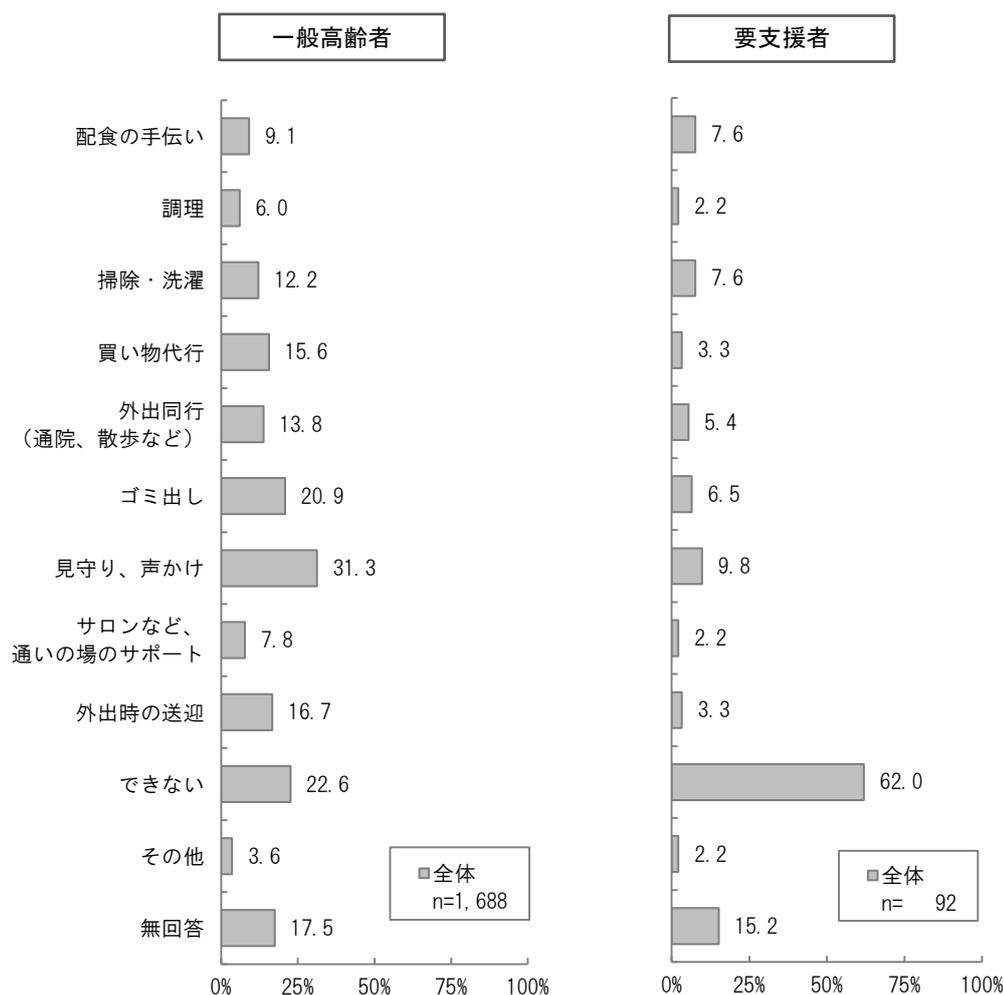


### (3) 地域住民が生活支援サービスとして支援できるもの

○地域でできる支援では、一般高齢者は「見守り、声かけ」(31.3%)が最も多く、次いで「ゴミ出し」(20.9%)、「外出時の送迎」(16.7%)、「買い物代行」(15.6%)、「外出同行(通院、散歩など)」(13.8%)、「掃除・洗濯」(12.2%)の順となっています。また、「できない」と回答した方は22.6%となっています。

○一方、要支援者は「できない」(62.0%)が最も多くなっています。前者と比べてすべてのサービスで支援できる割合が下回り、「できない」と回答した方は39.4%<sup>ポイント</sup>上回っています。

問5-(4) 地域でできる支援



## 6 たすけあいについて

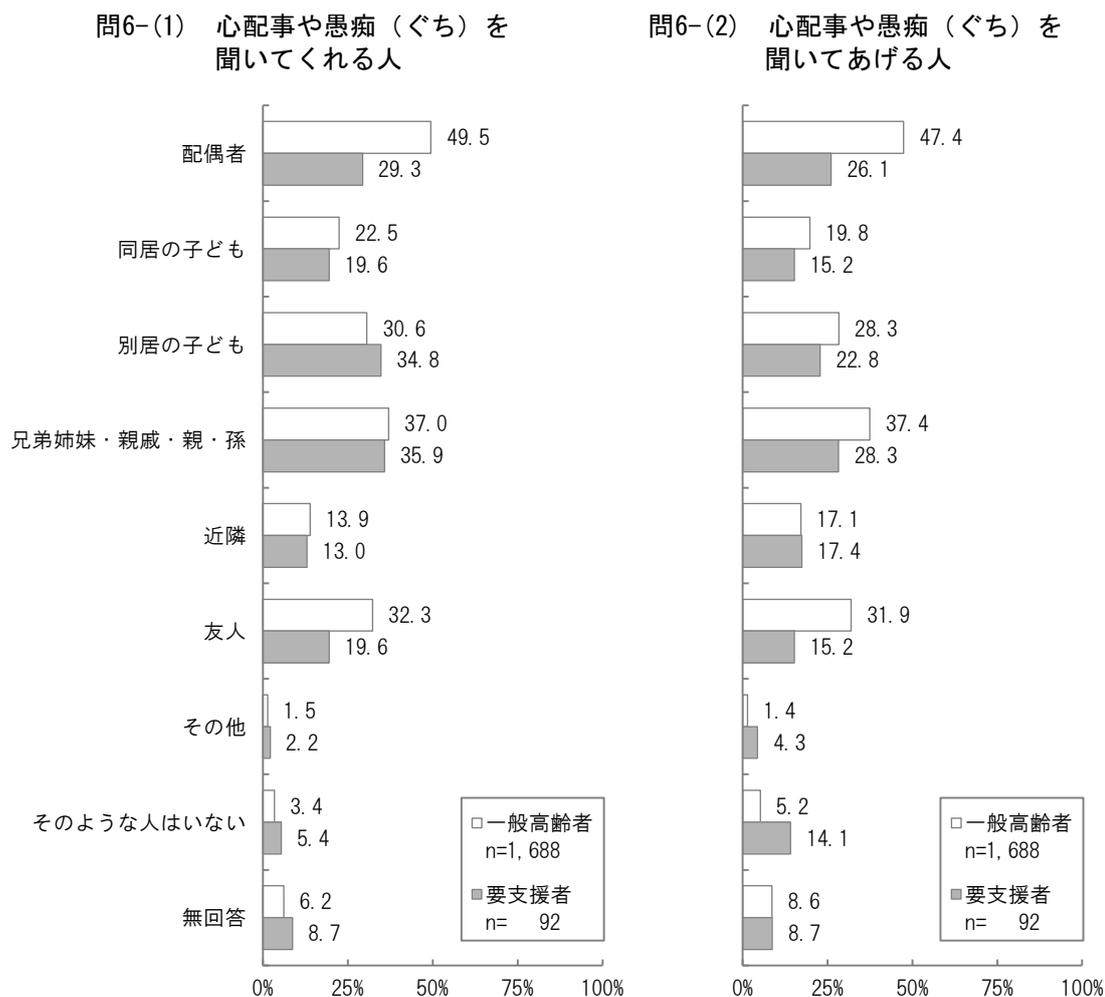
### (1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人をみると、一般高齢者は「配偶者」（49.5%）が最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（37.0%）、「友人」（32.3%）、「別居の子ども」（30.6%）、「同居の子ども」（22.5%）、「近隣」（13.9%）の順となっています。

○一方、要支援者は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（35.9%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（34.8%）、「配偶者」（29.3%）、「同居の子ども」「友人」（各19.6%）、「近隣」（13.0%）となっており、前者と比べて「別居の子ども」の割合が上回っています。

○反対に心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人では、一般高齢者は「配偶者」（47.4%）が最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（37.4%）、「友人」（31.9%）、「別居の子ども」（28.3%）、「同居の子ども」（19.8%）、「近隣」（17.1%）の順となっています。

○一方、要支援者は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（28.3%）が最も多く、「配偶者」（26.1%）、「別居の子ども」（22.8%）、「近隣」（17.4%）、「同居の子ども」「友人」（各15.2%）となっており、前者と比べて「近隣」の割合が上回っています。



○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人では、一般高齢者は「配偶者」(56.4%)が最も多く、次いで「同居の子ども」(31.0%)、「別居の子ども」(28.0%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(23.1%)の順となっています。

○一方、要支援者は「同居の子ども」(31.5%)が最も多く、次いで「配偶者」(30.4%)、「別居の子ども」(29.3%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(21.7%)になっており、前者と比べて「同居の子ども」「別居の子ども」「近隣」の割合が上回っています。

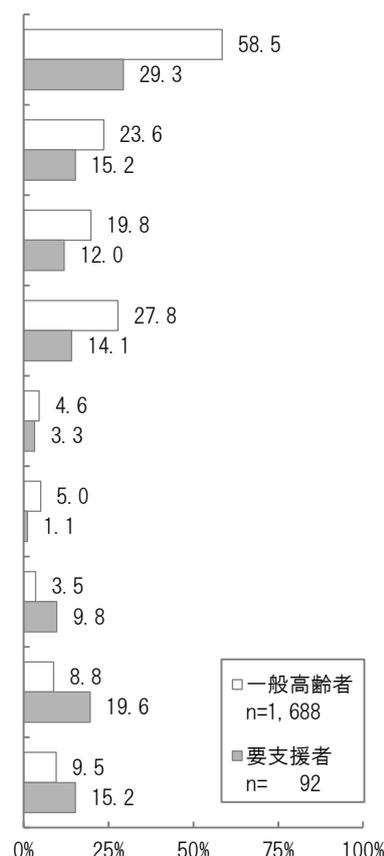
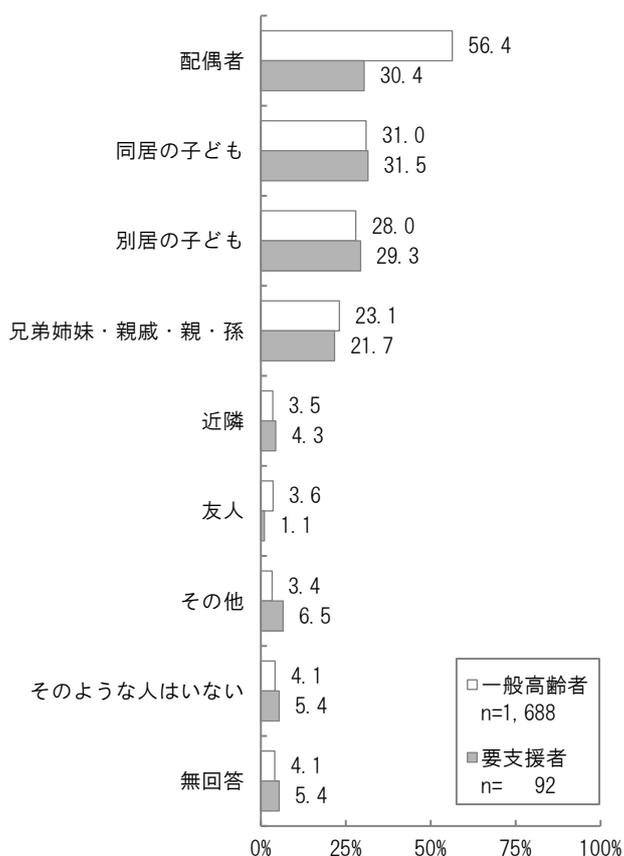
○反対に一般高齢者の看病や世話をしあげる人は、「配偶者」(58.5%)が最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(27.8%)、「同居の子ども」(23.6%)、「別居の子ども」(19.8%)の順となっています。

○一方、要支援者は「配偶者」(29.3%)が最も多く、次いで「同居の子ども」(15.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(14.1%)、「別居の子ども」(12.0%)となっており、前者と比べて「そのような人はいない」の割合が上回っています。

○看病や世話をしあげる人はいないと回答した方は、前者と比べて10.8<sup>ポイント</sup>高くなっています。

問6-(3) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

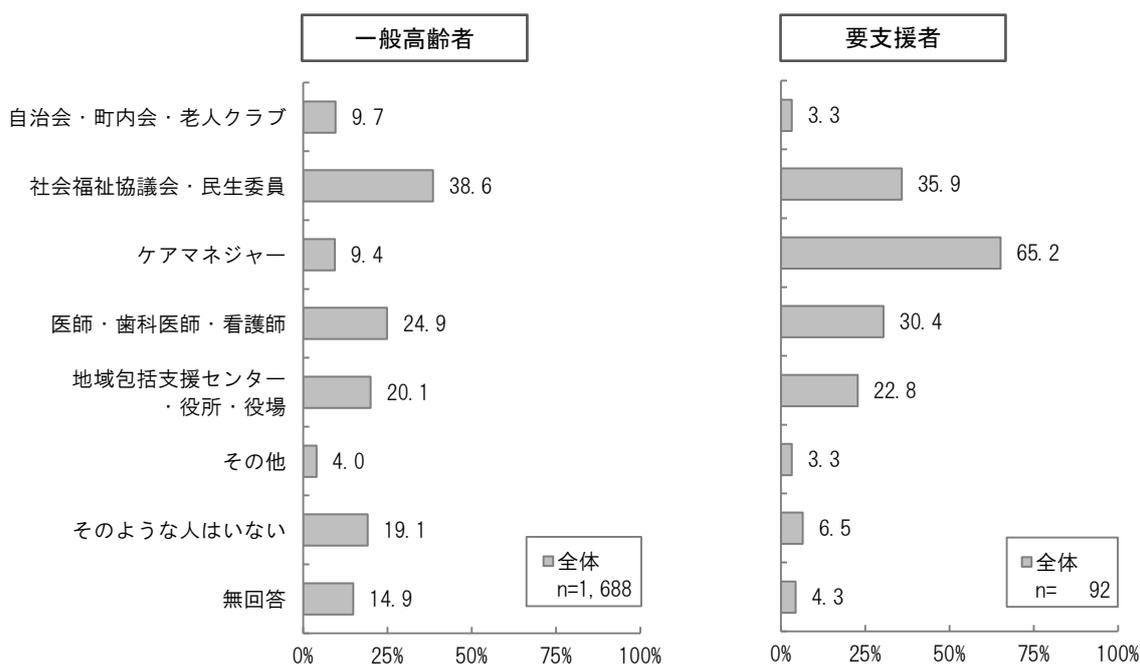
問6-(4) 看病や世話をしあげる人



○家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手では、一般高齢者は「社会福祉協議会・民生委員」(38.6%)が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(24.9%)、「地域包括支援センター・役所・役場」(20.1%)の順となっています。また、「そのような人はいない」は19.1%となっています。

○一方、要支援者は「ケアマネジャー」(65.2%)が最も多く、次いで「社会福祉協議会・民生委員」(35.9%)、「医師・歯科医師・看護師」(30.4%)、「地域包括支援センター・役所・役場」(22.8%)の順となり、前者と比べて「ケアマネジャー」は55.8ポイント上回っています。

問6-(5) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

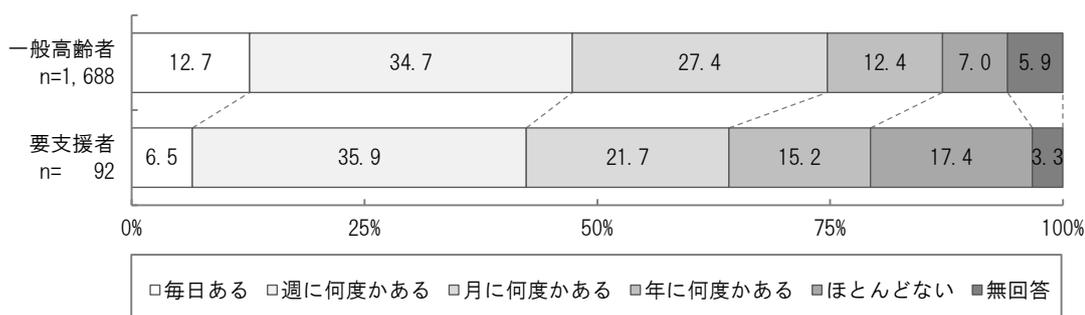


## (2) 友人・知人との交流状況

○友人・知人と会う頻度では、一般高齢者は「週に何度かある」(34.7%)が最も多く、次いで「月に何度かある」(27.4%)、「毎日ある」(12.7%)、「年に何度かある」(12.4%)、「ほとんどない」(7.0%)となっています。

○一方、要支援者は「ほとんどない」が17.4%となっており、前者と比べて10.4ポイント上回っています。

問6-(6) 友人・知人と会う頻度



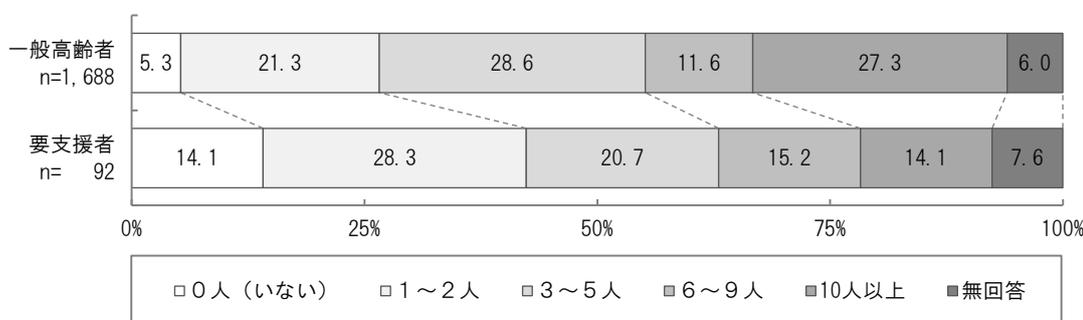
○1か月間に何人の友人・知人と会ったかでは、一般高齢者は「3～5人」(28.6%)が最も多く、次いで「10人以上」(27.3%)、「1～2人」(21.3%)、「6～9人」(11.6%)の順となっています。

○一方、要支援者は「1～2人」(28.3%)が最も多く、次いで「3～5人」(20.7%)、「6～9人」(15.2%)、「0人(いない)」「10人以上」(各14.1%)の順となり、前者と比べて順位と割合ともに異なります。

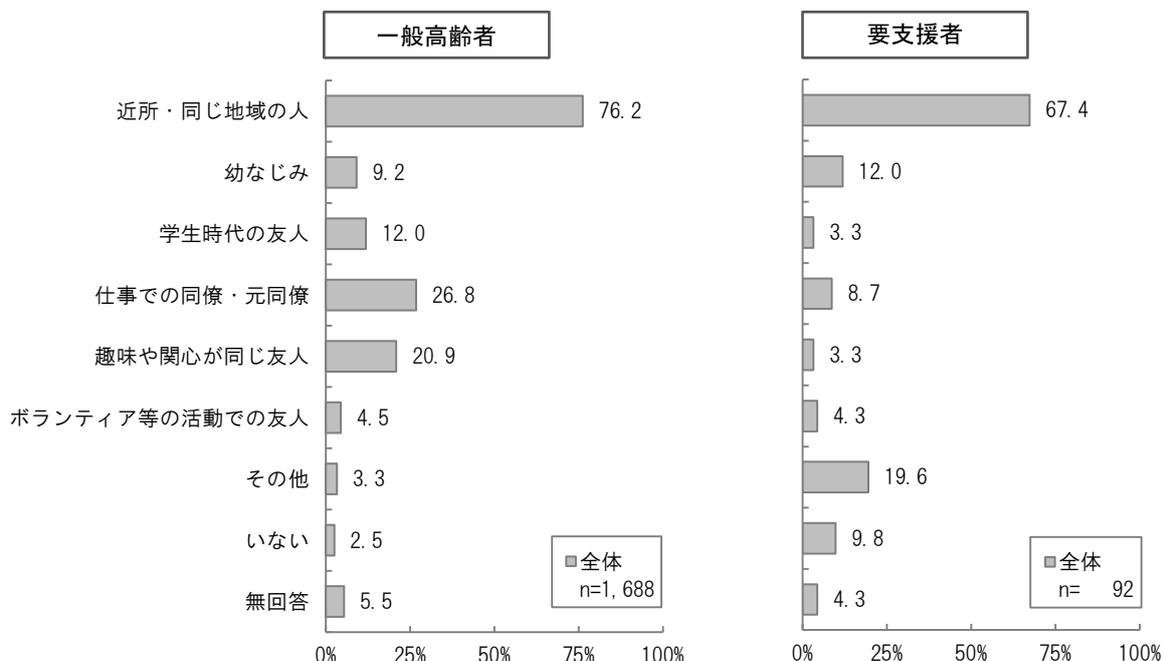
○よく会う友人・知人はどんな関係の人かでは、一般高齢者は「近所・同じ地域の人」(76.2%)が最も多く、次いで「仕事での同僚・元同僚」(26.8%)、「趣味や関心が同じ友人」(20.9%)、「学生時代の友人」(12.0%)の順となっています。

○一方、要支援者は「近所・同じ地域の人」(67.4%)が最も多く、次いで「幼なじみ」(12.0%)となり、前者と比べて「幼なじみ」以外の項目では割合が下回っています。

問6-(7) 何人の友人・知人と会ったか(最近1か月間)



問6-(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人か



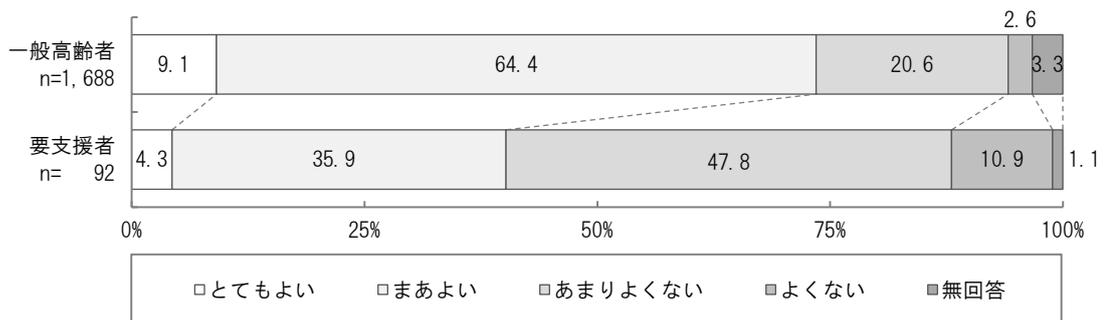
## 7 健康について

### (1) 健康状態

○調査対象者の現在の主観的健康感をみると、一般高齢者は「まあよい」(64.4%)が最も多く、「とてもよい」(9.1%)を合わせた73.5%が健康と感じています。

○一方、要支援者の健康と感じている方は40.2%で、よくないと感じている方は58.7%となり、前者と比べて健康と感じている方が33.3%<sup>※</sup>下回っています。

問7-(1) 現在の健康状態はいかがですか



## (2) 疾病と喫煙や飲酒の関係

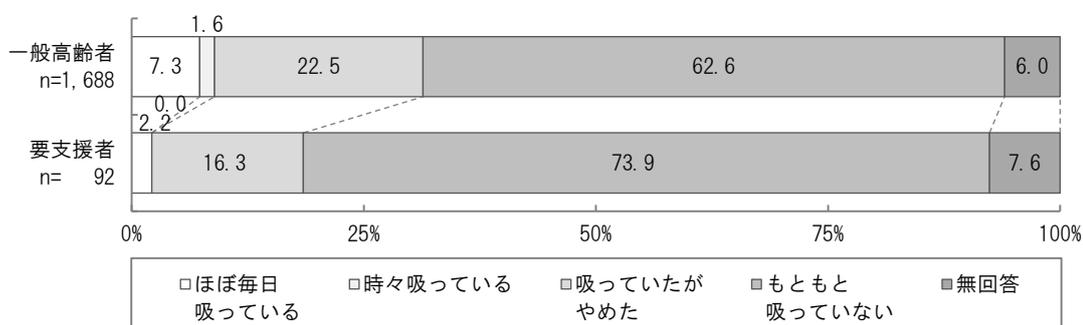
○喫煙の有無をみると、一般高齢者は「ほぼ毎日吸っている」(7.3%)と「時々吸っている」(1.6%)を合わせた8.9%が喫煙者となります。

○一方、要支援者は「ほぼ毎日吸っている」と回答した2.2%が喫煙者となり、前者と比べて下回っています。

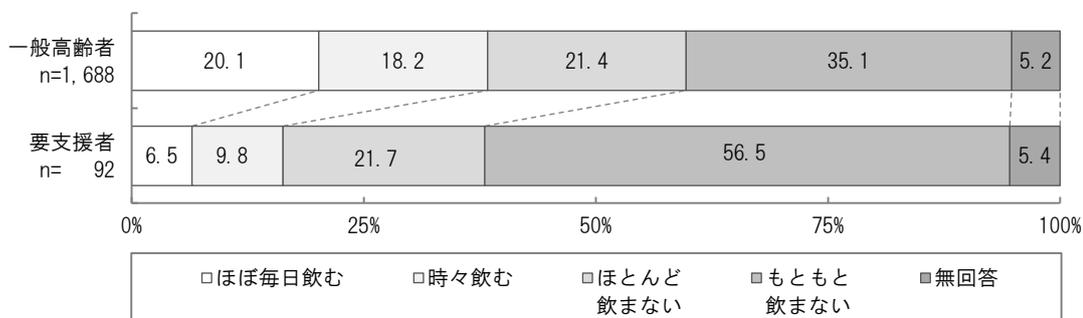
○飲酒の有無では、一般高齢者は「ほぼ毎日飲む」(20.1%)と「時々飲む」(18.2%)を合わせた38.3%が飲酒者となります。

○一方、要支援者は「ほぼ毎日飲む」(6.5%)と「時々飲む」(9.8%)を合わせた16.3%が飲酒者となり、前者と比べて22.0<sup>ポイント</sup>下回っています。

問7-(5) 喫煙の有無



問7-(7) 飲酒の有無

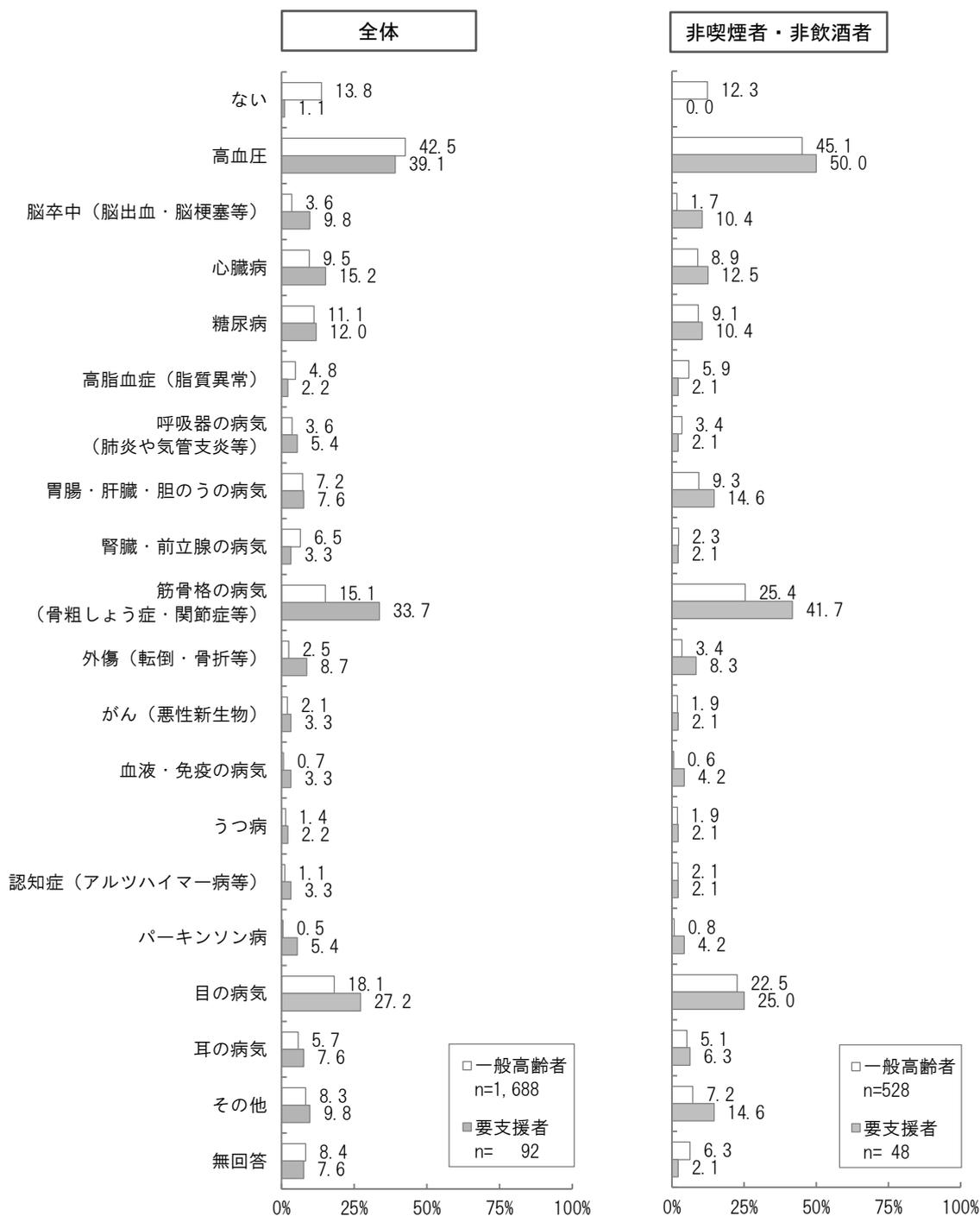


○現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、全体では一般高齢者・要支援者ともに「高血圧」(42.5%・39.1%)が最も多くなっています。また、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」では後者(33.7%)が前者(15.1%)を大きく上回っています。

○一方、非喫煙者・非飲酒者では全体同様に「高血圧」が最も多くなっています。

○また、上位の「高血圧」「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」を全体と非喫煙者・非飲酒者で比較すると、一般高齢者・要支援者ともに非喫煙者・非飲酒者での割合が高くなっていることから、疾病により医師から喫煙及び飲酒を止められている方が多いと思われる。

問7-(6) 現在治療中、または後遺症のある病気の有無

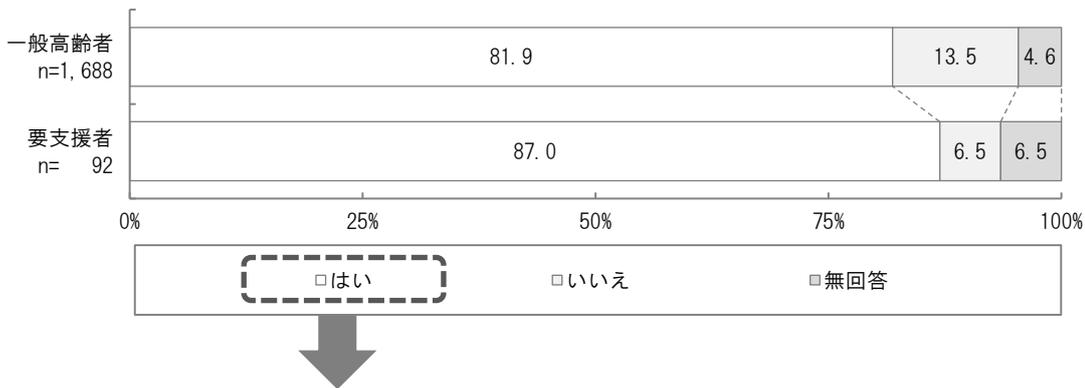


### (3) 通院の状況

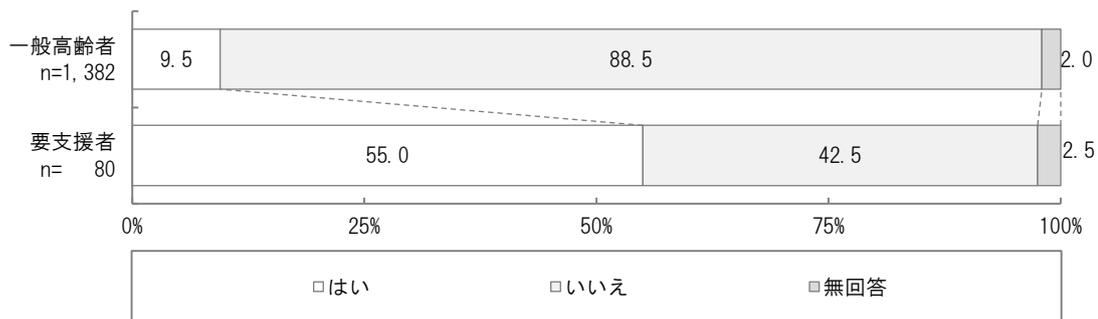
○通院の状況を見ると、一般高齢者は81.9%、要支援者は87.0%が通院しています。

○通院時の介助についてみると、一般高齢者は9.5%、要支援者は55.0%が必要と回答しています。

問7-(8) 通院の有無



問7-(8).① 通院に介助が必要

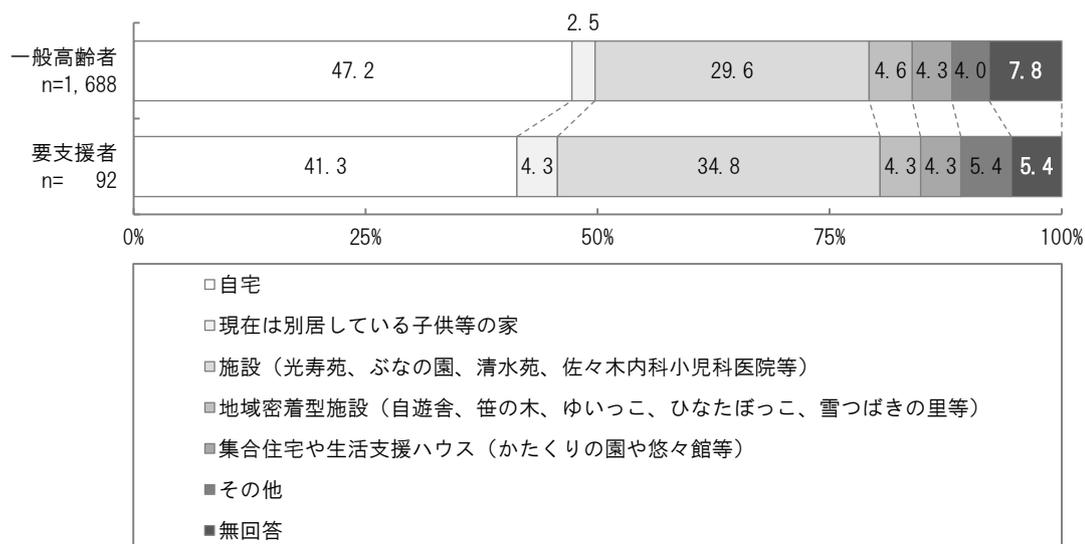


## 8 今後の生活について

### (1) 今後の生活について

○今後生活したい場所をみると、一般高齢者・要支援者ともに「自宅」(47.2%・41.3%)が最も多く、次いで「施設(光寿苑、ぶなの園、清水苑、佐々木内科小児科医院等)」(29.6%・34.8%)となっています。

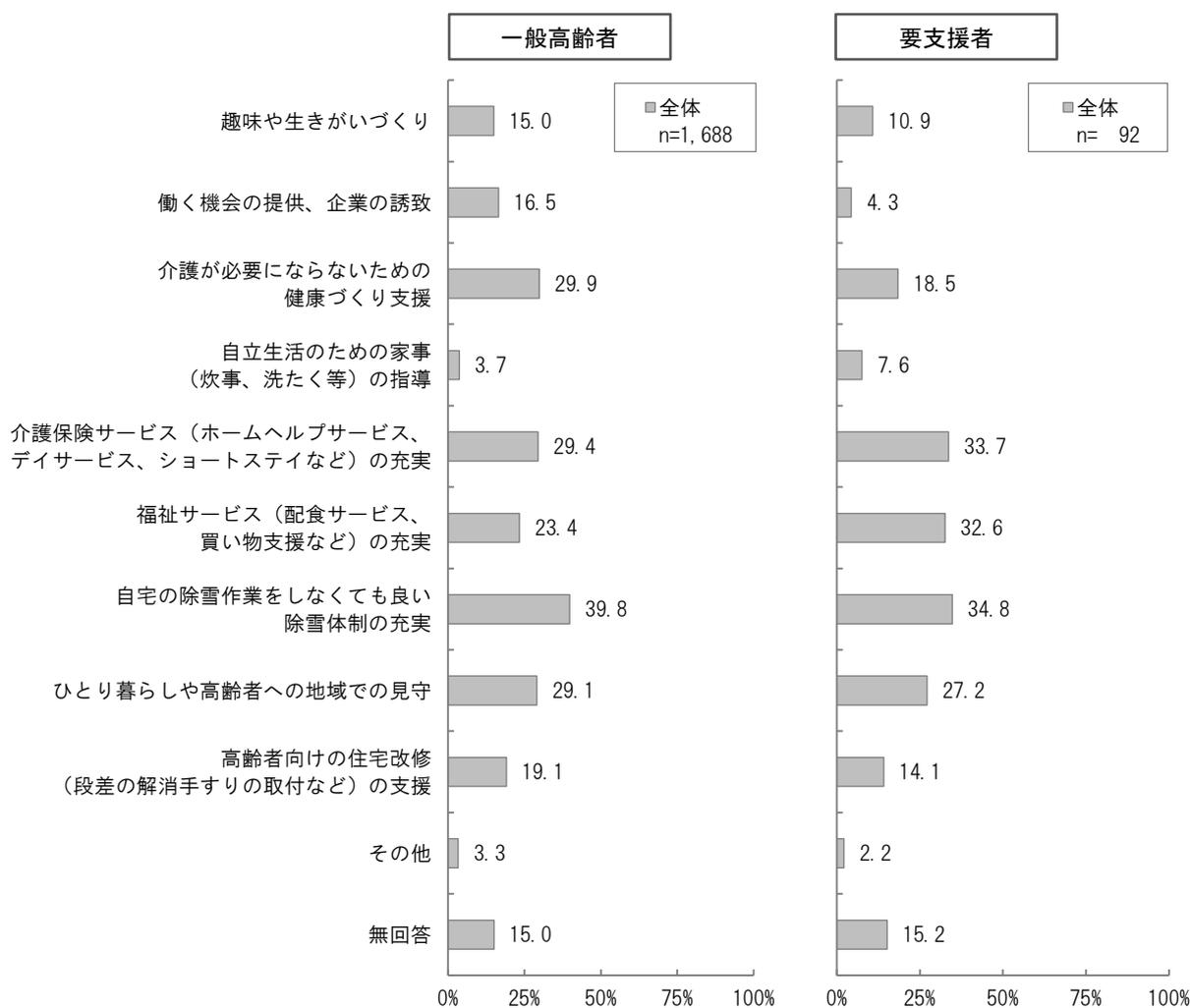
問8-(1) 今後生活したい場所



○町に力を入れてほしいことは、一般高齢者は「自宅の除雪作業をしなくても良い除雪体制の充実」(39.8%)が最も多く、次いで「介護が必要にならないための健康づくり支援」(29.9%)、「介護保険サービス(ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなど)の充実」(29.4%)、「ひとり暮らしや高齢者への地域での見守」(29.1%)、「福祉サービス(配食サービス、買い物支援など)の充実」(23.4%)、「高齢者向けの住宅改修(段差の解消手すりの取付など)の支援」(19.1%)、「働く機会の提供、企業の誘致」(16.5%)、「趣味や生きがいがづくり」(15.0%)の順となっています。

○一方、要支援者は「自宅の除雪作業をしなくても良い除雪体制の充実」(34.8%)が最も多く、次いで「介護保険サービス(ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなど)の充実」(33.7%)、「福祉サービス(配食サービス、買い物支援など)の充実」(32.6%)、「ひとり暮らしや高齢者への地域での見守」(27.2%)、「介護が必要にならないための健康づくり支援」(18.5%)、「高齢者向けの住宅改修(段差の解消手すりの取付など)の支援」(14.1%)、「趣味や生きがいがづくり」(10.9%)の順となっています。また、前者と比べて「自立生活のための家事(炊事、洗たく等)の指導」「介護保険サービス(ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなど)の充実」「福祉サービス(配食サービス、買い物支援など)の充実」を求める方が多くなっています。

問8-(2) 町に力を入れてほしいこと



○西和賀町に住み続けたいかをみると、一般高齢者・要支援者ともに「思う」(69.4%・78.3%)、次いで「どちらともいえない」(14.4%・9.8%)となっています。

問8-(3) 西和賀町に住み続けたいか

